

2022年度公益財団法人JKA補助事業

教育現場のICT安全安心対策事業 実施報告書

令和5年3月

一般社団法人日本教育情報化振興会



この事業は競輪の補助金を受けて実施したものです。

目次

第1章	1
情報モラル指導充実のための事業	1
1. 事業の目的	2
2. 作業項目とスケジュール／作業体制	3
3. セミナー開催	8
4. 教育の情報化推進フォーラム	31
5. 今年度作成したコンテンツの概要	34
6. まとめ	39
第2章	40
コミュニケーション力育成のための事業	40
1. 事業の目的	41
2. 作業項目とスケジュール／作業体制	42
3. 情報活用能力を育む授業づくりガイドブック	45
4. セミナー開催	49
5. 授業研究	60
6. まとめ	66

第 1 章

情報モラル指導充実のための事業

1. 事業の目的

インターネットは、社会生活の一部となり、買い物や予約申込み等は電話よりもむしろインターネットを利用して行い、インターネット無しでは考えられないというほど、社会生活に浸透している。また、スマートフォンの爆発的な普及によりインターネットへの入り口となる端末は、パソコン、携帯電話からスマートフォン、タブレット端末、ゲーム機、音楽プレーヤーのように多様化すると同時に、いつでも、どこでも、誰でもインターネットに接続して、利用できるものとなっており、児童・生徒は保護者の目の届かないところで利用できるようになった。また、2022年度には、文部科学省の政策「GIGAスクール構想」により、児童・生徒1人に1台のPCが整備され、その活用と児童・生徒の安心安全のための配慮が非常に重要なテーマとなっている。

このように身近になったインターネットであるが、その利用により手軽に多くの情報を入手したり、見知らぬ人々とコミュニケーションを取ったり、自宅での買い物も手軽にできるなど、様々なことが手軽にかつ安全安心にできるようになると同時に、もう一方では児童・生徒がSNS・Twitterや無料ゲームなどのコミュニティサイトで犯罪などに巻き込まれる事例も発生している。

日本教育情報化振興会では、児童・生徒の安全安心を願い「教育現場のICT安全安心対策事業」を展開しており、この中の一つの事業として「情報モラル指導充実のための事業」を実施している。

これまで、インターネットには危険な面があるということで児童・生徒をそれらから遠ざけるのではなく、子どもたち自身がインターネットを上手に使い、上手に付き合っていけるようにすることが大切であるという考え方に基づいて「ネット社会の歩き方セミナー」を開催してきた。これは、直接、児童・生徒と保護者に対し、ネット社会をどう歩いていけばよいのかを指導、啓発するセミナーであったが、学習指導要領の総則に「各教科等の指導にあたっては…情報モラルを身につけ…」と記載されたことを契機に、全ての教員が、全ての教科で情報モラル指導をできるように、その指導法、教材や現在児童・生徒の抱えている問題点など最新の情報を提供することを目的として、平成23年度から公益財団法人JKAの補助をいただき、情報モラル指導の講師を育成すべく「情報モラル指導充実のための事業」を行い、教職員や教育委員会の指導主事などを対象としたセミナーを開催して、今年度はその10年目にあたる。正しい指導方法を広く展開することを重要な観点として、セミナー参加者がその地域の教育委員会や学校に戻り、そこで講師として指導ができるための教材と指導方法を伝える資料を用意し、裾野を広げるための活動としている。

なお、これらは公益財団法人JKAの競輪の補助金を受け実施した。

2. 作業項目とスケジュール／作業体制

(1) 作業項目とスケジュール

作業項目とスケジュールは下記の通りである

図表1 作業項目とスケジュール

作業項目	2022年									2023年		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
委員会開催	▼① 18	▼② 23	▼③ 14			▼④ 5	▼⑤ 11		▼⑥ 12	▼⑦ 27		
開催地公募	---▼											
テキスト改訂	▲-----▼											
セミナー開催			▲-----▼									
学習教材開発		▲-----▼										
教育の情報化 推進フォーラム												▼ 3

(2) 委員会の設置

本事業では有識者で構成する「ネット社会の歩き方情報モラルセミナー検討委員会」を組織して作業に取り組んだ。全7回の検討委員会を開催し、作業スケジュールの策定、セミナー開催地の公募と採択、セミナー用テキストの改訂、セミナー開催時の講師、学習教材の企画と開発、成果発表会での報告等、本事業の全体を管理した。

また、セミナー用テキストの改訂の実作業、セミナー開催地の教育委員会との連絡、セミナー開催準備、学習教材開発の実作業等は事務局が担当した。

図表2 委員一覧

所属	役職及び氏名
鳴門教育大学大学院	教員養成 DX 推進機構長・教授 藤村 裕一
岐阜聖徳学園大学	教授 石原 一彦
中央大学	非常勤講師 榎本 竜二
新見公立大学	特任教授 梶本 佳照
エンゼル幼稚園	子育て支援センター長 勝見 慶子
千葉学芸高等学校	校長 高橋 邦夫

柏市教育委員会	教育研究専門アドバイザー	西田 光昭
京都市立向島秀蓮小中学校	教諭	堀川 紘子
千葉大学教育学部 附属中学校	副校長	三宅 健次
川崎市教育委員会	指導主事	和田 俊雄

図表 3 事務局等の体制

所属	役職及び氏名	役割
一般社団法人 日本教育情報化振興会	常務理事・事務局長 中沢 研也	責任者
同上	事務局次長・調査研究開発部長 吉田 真和	総括・研修対応・窓口
同上	企画担当部長 岩瀬 幹彦	研修対応

(3) 委員会の開催

委員会は、適宜日程を調整し開催した。今年度は、たくさんの教材開発を行なったため、確認事項が多く発生したが、年間7回の委員会を開催した。

それぞれの開催日、議題は下記の通りである。

図表 4 委員会開催実績

開催回数	開催日	議題
第1回	R4. 4. 18	・年度スケジュールの確認 ・セミナー開催地採択と担当委員の選定 ・GIGA スクール構想に対応した共通教材の改訂の検討 ・新規教材について － ユニット教材（新規コンテンツ 10 本） － 「ネット社会の歩き方」小学校高学年中学校高校向け 図鑑教材改訂制作（4 頁追加、全 28 頁） － 「ネット社会の歩き方」小学校低中学年向け 図鑑教材制作（16 頁） － 「ネット社会の歩き方」ナビゲーター
第2回	R4. 5. 23	・新規教材について － ユニット教材（新規コンテンツ 10 本）

		- 「ネット社会の歩き方」小学校高学年中学校高校向け 図鑑教材改訂制作（4 頁追加、全 28 頁） - 「ネット社会の歩き方」小学校低中学年向け 図鑑教材制作（16 頁） - 「ネット社会の歩き方」ナビゲーター ・ 関西教育 ICT 展（8/5）のパネル討論について ・ JAET 全国大会愛知春日井大会（10/29）のパネル討論について
第 3 回	R4. 6. 14	・ 新規開発するコンテンツについて - ユニット教材（新規コンテンツ 10 本） - 「ネット社会の歩き方」小学校高学年中学校高校向け 図鑑教材改訂制作（4 頁追加、全 28 頁） - 「ネット社会の歩き方」小学校低中学年向け 図鑑教材制作（16 頁） - 「ネット社会の歩き方」ナビゲーター ・ 関西教育 ICT 展（8/5）のパネル討論について ・ JAET 全国大会愛知春日井大会（10/29）のパネル討論について
第 4 回	R4. 9. 5	・ 新規開発するコンテンツについて - ユニット教材（新規コンテンツ 10 本） - 「ネット社会の歩き方」小学校高学年中学校高校向け 図鑑教材改訂制作（4 頁追加、全 28 頁） - 「ネット社会の歩き方」小学校低中学年向け 図鑑教材制作（16 頁） - 「ネット社会の歩き方」ナビゲーター ・ JAET 全国大会愛知春日井大会（10/29）のパネル討論について ・ 2023 年度開発教材の検討
第 5 回	R4. 10. 11	・ 教育の情報化推進フォーラム（3/3）のパネル討論について ・ JAET 全国大会愛知春日井大会（10/29）のパネル討論について ・ 新規開発するコンテンツについて - ユニット教材（新規コンテンツ 10 本） - 「ネット社会の歩き方」小学校高学年中学校高校向け

		図鑑教材改訂制作（4 頁追加、全 28 頁） - 「ネット社会の歩き方」小学校低中学年向け 図鑑教材制作（16 頁） - 「ネット社会の歩き方」ナビゲーター
第 6 回	R4. 12. 12	・教育の情報化推進フォーラム(3/3)のパネル討論について ・新規揮発するコンテンツについて - ユニット教材（新規コンテンツ 10 本） - 「ネット社会の歩き方」小学校高学年中学校高校向け 図鑑教材改訂制作（4 頁追加、全 28 頁） - 「ネット社会の歩き方」小学校低中学年向け 図鑑教材制作（16 頁） - 「ネット社会の歩き方」ナビゲーター ・2023 年度開発教材の検討
第 7 回	R5. 1. 27	・教育の情報化推進フォーラム(3/3)のパネル討論について ・開発教材の最終確認 - アフレコに向けた修正の確認及び内容の確定 - 「ネット社会の歩き方」小学校高学年中学校高校向け 図鑑教材改訂制作（4 頁追加、全 28 頁） - 「ネット社会の歩き方」小学校低中学年向け 図鑑教材制作（16 頁） - 「ネット社会の歩き方」ナビゲーター ・2023 年度開発教材の検討、準備

(4) 開催地の公募

開催地の公募は、教育委員会の意向もあり¹前年度の 1 月より行った。日本教育情報化振興会の Web ページで公開すると共に、全国の都道府県と中核市以上の教育委員会約 120 カ所へ下記内容の案内状を送付した。また、当会の会報を全国自治体（1、724 カ所）の教育委員会に送付しているが、そこに下記内容の案内状を同封した。

¹通常、地方自治体の教育委員会は教員研修計画を前年度の 2 月頃に策定している。この計画に組み込むために、本事業で実施するセミナーの採択に関しても早期の決定を求められている。

1) テーマ

「情報モラル教育指導のポイント」

2) 開催時期と時間

令和4年 6月から令和5年2月の間の午後、最低 2時間30分

3) 対象受講者と会場あたりの定員

指導主事、教職員 約50名程度（目安）

4) 開催会場

地方自治体等の無償で利用できる会場 かつ 受講者がパソコンを使用可能な会場

5) セミナーの具体的な内容

講師育成セミナー検討委員会と貴教育委員会の協議で決定する

6) セミナーのプログラム（例）

- ・ データから見るネット社会の現状
- ・ 情報モラルの指導（理論編および実践編）
- ・ 「ネット社会の歩き方」の活用
- ・ その他の教材の紹介
- ・ 保護者との関わり
- ・ 問題発生時の対応
- ・ ワークショップ

(5) セミナー用テキストの改訂

セミナー用テキストの中には、携帯電話・スマートフォンの保有率やネット上のトラブル発生状況等、年々変化する数値データがあるため、中央省庁が発表している最新データに更新した。

さらに、GIGAスクール構想により、1人1台のPC環境整備による情報モラルの重要性についても、解説を追加した。

また、スマートフォンを保有する比率が増え、アプリの進展による新しいSNSのサービスや問題にも対応する必要があった。このように世の中の動きを反映したセミナーとするために、委員の意見に基づき（過去一年間程度のネット上のトラブルやリスクの中から喫緊の課題と考えられる事案を取り込む）資料の差し替えを行った。

3. セミナー開催

(1) セミナー開催

本事業で提供するセミナーは、全国の教育委員会が主催している教員向け研修会の一プログラムとして実施される場合が多い。この関係で、教員が比較的時間を確保し易い、夏休み期間に開催が集中している。教育委員会の指定が無い場合は以下のプログラムでセミナーを実施することとした。

昨年に続き 2022 年度も新型コロナウイルス感染症はまん延していたが、ある程度の収束の兆しが見え始めたため、一部の自治体ではオンライン形式で実施したが、集合研修のセミナー開催が大幅に増加した。

図表 5 セミナー開催実績

開催回数	開催日	開催場所	講師	人数
第 1 回	R4. 5. 16	埼玉県八潮市教育委員会	三宅委員	20 名
第 2 回	R4. 6. 7	長崎県松浦市教育委員会	藤村委員長	20 名
第 3 回	R4. 6. 17	高知県越知町教育委員会	藤村委員長	33 名
第 4 回	R4. 7. 8	岩手県岩手町教育委員会	三宅委員	13 名
第 5 回	R4. 7. 13	沖縄県西原町教育委員会	藤村委員長	42 名
第 6 回	R4. 7. 25	愛媛県伊予市教育委員会	三宅委員	66 名
第 7 回	R4. 7. 27	大阪府守口市教育委員会	西田委員	25 名
第 8 回	R4. 7. 29	青森県藤崎町教育委員会	西田委員	55 名
第 9 回	R4. 7. 29	千葉県成田市教育委員会 (オンライン形式)	三宅委員	43 名
第 10 回	R8. 8. 2	鹿児島県伊佐市教育委員会	藤村委員長	54 名
第 11 回	R4. 8. 5	関西教育 I C T 展	藤村委員長 石原委員 三宅委員 和田委員	87 名
第 12 回	R4. 8. 10	広島県呉市教育委員会 (オンライン形式)	榎本委員	71 名
第 13 回	R4. 8. 18	佐賀県教育庁 (高等学校の部)	藤村委員長	50 名
第 14 回	R4. 8. 18	佐賀県教育庁 (小中学校・特支学校の部) (オンライン形式)	藤村委員長	100 名
第 15 回	R4. 8. 19	広島県大竹市教育委員会	西田委員	36 名
第 16 回	R4. 8. 22	鹿児島県和泊町教育委員会 (沖永良部島)	西田委員	24 名

第 1 7 回	R4. 8. 23	兵庫県芦屋市立打出教育文化センター	梶本委員	53 名
第 1 8 回	R4. 8. 24	長崎県雲仙市教育委員会 (オンライン形式)	藤村委員長	29 名
第 1 9 回	R4. 8. 25	千葉県大網白里市教育委員会	藤村委員長	46 名
第 2 0 回	R4. 8. 26	鹿児島市立学校 ICT 推進センター	梶本委員	28 名
第 2 1 回	R4. 9. 13	千葉県総合教育センター	三宅委員	100 名
第 2 2 回	R4. 10. 14	鹿児島県総合教育センター	西田委員	30 名
第 2 3 回	R4. 10. 19	福岡県嘉麻市教育研究所	藤村委員長	38 名
第 2 4 回	R4. 10. 27	愛媛県西条市教育委員会	藤村委員長	40 名
第 2 5 回	R4. 10. 29	JAET 全国大会愛知春日井大会	藤村委員長 石原委員 榎本委員 和田委員	79 名
第 2 6 回	R5. 2. 14	長崎県長崎市教育委員会教育研究所 (オンライン形式)	西田委員	109 名
第 2 7 回	R5. 3. 3	教育の情報化推進フォーラム	藤村委員長 榎本委員 西田委員	127 名
合計				1418 名

図表 6 埼玉県八潮市教育委員会のセミナー風景（令和 4 年 5 月 1 6 日）



図表 7 高知県越知町教育委員会でのセミナー風景（令和 4 年 6 月 1 7 日）



図表 8 青森県藤崎町教育委員会でのセミナー風景（令和 4 年 7 月 2 9 日）



図表 9 鹿児島県伊佐市教育委員会でのセミナー風景（令和 4 年 8 月 2 日）



図表 1 0 広島県大竹市教育委員会でのセミナー風景（令和 4 年 8 月 1 9 日）



(2) セミナー開催団体の所感

セミナー開催団体の所感を以下に抜粋する。

- 1) タイトな日程であったが、厳選された内容で講話いただき、さらにワークショップの機会まで設定いただいたことで、参加者は集中して講義を受け、充実した研修会になった。端末の普及・活用が急速に進み、情報を取り扱う際のマナーやきまり等については、トップダウンの指導や「～してはいけない」と抑制する指導になりがちだったので、必要感や実感の伴う情報モラル教育のためには、当事者に考えさせ、望ましい形を見出させることが大切であることや、その方法を知ったことで、この学びを実践につなげたいという意欲を持った方が多かった。

今回は、児童生徒理解ということで、生徒指導担当、経験年数の少ない方、希望者という対象で実施したが、情報教育担当者にも周知し、各校におけるサイトや資料の活用を推進していただけるよう、主任会で、今回の研修内容についてお知らせする予定。

- 2) 「ネット社会の歩き方」については、様々な教材が数多くあることが知れたので、今後の実践に生かしやすいと感じた。課題となってくるのはカリキュラムに関してであり、各校の経験カリキュラムを持ち寄って、必要かどうかを取捨選択していきたい。
- 3) 新型コロナウイルス感染症の感染状況に鑑み、当初の計画を変更して、オンラインによる開催となった。開催形態の変更にあたっては、藤村先生に快く御対応いただいた。前半の「ネット社会の歩き方」の講演冒頭では、現行の学習指導要領や令和の日本型学校教育をふまえた GIGA スクール構想について話をしていただいたことで、受講者は、なぜ情報モラル教育の必要性が高まっているのかをより実感しながら受講できた。また、本セミナーにおいては、本市からの要望に応じていただき、デジタルシチズンシップ教育についても話していただいたことで、受講者は情報モラル教育とデジタルシチズンシップ教育は単なる二項対立的なものでないことについて知り、そして、「大人が規制せずとも、自分で正しく判断して活用できる児童生徒の育成」について意欲を高めることができた。後半のワークショップについてもブレイクアウト機能を利用することで、集合研修と変わりなく活発に議論することができた。
- 4) 新型コロナウイルス感染症対策として、オンライン研修で御講演いただきました。最新の情報やすぐに活用できるコンテンツの紹介など、大変有益な御講演をいただくことができました。グループ協議の内容発表の場では、発表者の発言の後に榎本先生が御助言をくださったことで、研修をさらに深めることができました。参加者からは、「どの教材も『今すぐに活用したい!』』と思えるものばかりでした。ぜひ活用させてください。」「グループでの活動で、教材としてどのように使用するかを先生方と話し合うことができてよかった。」等、今後に向けて前向きな意見が多数ありました。
- 5) 研修参加者は、手元のタブレットを活用した、意見の収集や共同編集でのワークショップ、豊富な情報モラルの教材を活用しての授業案作成のワークショップなどを積極的に行い、非常に充実した時間を過ごしていた。事後の振り返りなどでも、これからの子どもたちが歩いていく社会で情報モラルについてのスキルが必ず必要になることを改めて認識したという感想が寄せられた。
- 6) わが国における青少年のインターネット利用の現状とその問題点を交えつつ、GIGAスクール構想の方向性と学習指導要領との関わりについてわかりやすく丁寧に説明していただき、具体的な実践方法や紹介していただいた教材等は学校現場ですぐにでも実践や活用ができるものばかりで大いに刺激になりました。残念ながら参加者が少なかったですが、その分全員が集中して参加できました。

図表 1 1 セミナー開催団体の所感

開催場所	講師	所感
埼玉県八潮市教育委員会	三宅委員	・様々なデータや資料を提示しながらお話をしていただいたので、ネット社会の現状や情報モラルについてより深く理解することができた。 ・非常に細やかに今の子供たちの実態や直面するトラブルについて学ぶことができた。 ・活用できそうな情報が多く、今後の参考になった。 ・いただいた資料と、説明の際に使用した資料が違っていたので少し困ってしまった。 ・ワークショップで教材を作成したが、限られた研修時間なので最後まで作成しなくてもよいのではと感じた。 ・資料や教材がたくさん示され、大変参考になりました。ありがとうございました。 ・職員会議などの限られた時間の中で、情報を広めていきたい。 ・現代の児童生徒のスマホやタブレット等の使用の実態やどんなトラブルが考えられ、どう対応していくか飛行に細やかに学ぶことができた。本日、作成し共有していただいたスライドも校内で活用していきたい。 ・実態に合わせて、情報教育を進めて行きたい。
長崎県松浦市教育委員会	藤村委員長	・今回のセミナーは、情報教育担当者研修会の一環として開催した。昨年度はGIGAスクール元年であり、生徒指導面の危機感を持つ意味で、小学校生活指導主任、中学校生徒指導主事を対象としたが、今年度は、教育活動全体の中で情報モラル教育を位置付け、その中で「ネット社会の歩き方」を各学校でより活用していただくことを目的に開催した。 ・「ネット社会の歩き方」の講演では、ネットを取り巻く現状とモラル教育の必要性、学習指導要領とモラル教育との関連、ネット社会の歩き方の紹介をしていただいた。禁止事項や危険性を伝えるばかりの情報モラル教育ではなく、児童生徒が主体的に考え、使用方法について考えることができる情報モラル教育への取組の重要性について再認識する機会となった。また、学習活動へのGIGAスケー

		ル端末の活用についても講義の中で触れていただいたことで、学習活動全体の中でどのように端末を活用していくのかを考える機会にもなった。 ・ワークショップでは、前半は、ネット社会の歩き方の活用に向けて、サイトを閲覧し、実際にコンテンツを開き内容の確認と活用方法について紹介していただいた。動画教材の活用やシミュレーション教材の活用に向けて、効果的な使用方法や本市の端末がL T Eを導入していることで、データ量を抑えた使い方をするための工夫についても教えていただいたことは、参加者にとって非常に参考になった。 ・後半は、S N S ノート長崎の内容を、jamboard 上で教材化していただき、文字情報の感じ方が個々で違うことや画像の公開について考え方が違うことを、意見交換することでお互いに確認するワークショップを行った。言葉の感じ方の違いについて意見を交わす中で、自分にとって「うれしい」と思う言葉も人によっては全く反対の「いや」と思っていることもあり、ディスカッションをする中で相手のことを考える機会にもなった。また、写真の公開についての考え方では、意見交換後、藤村先生から問題点や公開に向けクリアにすべき点などもご指導いただき、授業での活用をより考えやすくなった。実際に教材を使用してワークショップを行ったことで、授業で活用するための具体的なイメージをつかむことができていたようだった。 ・参加者からは、積極的な活用に向け、次のような意見があった。「数年前の研修で『ネット社会の歩き方』についてご指導いただき、活用していたことがあった。数年ぶりに見てみると、活用しやすい内容に改訂されており驚いた。学校・家庭が連携した情報教育の資料が豊富なので、ぜひ活用したいと思った。早速自校の先生方にも共有し、積極的な活用をお願いした。」また、「参考となる資料やすぐに使える教材が多かったので、クラスルーム等を用いながら紹介し、利用できるようにしたいと思いました。」さらに、「本校の生徒はS N S を利用する機会があまりないので、シミュレーション教材を活用して具体的にネット社会の楽しさや恐ろしさに気付かせたい。」「生徒の発達段階に応じて、機を逃さずに動画教材を活用したい。」というよう
--	--	--

		に、紹介いただいたコンテンツを活用しようとする意欲も見られた。 ・昨年に引き続きセミナーを開催することで、学校における情報モラル指導の充実を図れると考え、申し込みをした。本県ではLINEと共同で「SNSノートながさき」を作成し、毎年6・7月を中心に「長崎っ子の心を見つける教育週間」での活用を行っている。今回、藤村先生からjamboardでの教材化をしていただいたものを提示していただいたことで、「SNSノートながさき」の活用方法について考えるきっかけになった。「ネット社会の歩き方」と併用することで、より効果的な活用ができるものとする。また、対象者を変え、2年連続でセミナーを実施したことで、「ネット社会の歩き方」を学校での活用する弾みになると考えている。 ・メディアとの向き合い方や機器の使用場面に応じた指導の充実とともに、保護者への啓発の充実を図る必要がある。今までは危険性について触れ、禁止事項を伝えるような取組が多く、今回のセミナーを通して、主体的に児童生徒に考えさせ、メディアの活用方法を自分で考える力をつけていくことの大切さについて考えられた。児童生徒の主体的な活動を、情報モラル教育の中で取り入れていくことで、教科の授業改善の一助になるとも考えられる。 ・参加者の振り返りから、「ネット社会の歩き方」を活用しようとする意欲が非常に感じられること、また、児童生徒が主体的に考えることができる教材が準備されていることから、情報モラル教育の教材として「ネット社会の歩き方」を普及していきたい。本市教育委員会として、可能であれば次年度、若手の教職員を対象に本セミナーを実施し、更なる普及をしていきたい。
高知県越知町教育委員会	藤村委員長	・ICTの活用について、具体的な事例とともに最新の情報等を教えていただき、驚きがありました。 ・最新のツールをご紹介いただけたので、活かせるものは取り入れていきたい。 ・社会の変化に遅れないように、日々使い方を学ぶ必要があると思いました。ある程度は慣れてきているので、次はより工夫していきたいです。

		・ネット社会の歩き方というサイトは使える。また、高知家まなびばこを活用していこうと思いました。 ・ICTは今後さらに多様化してくるので、モラルを身に付けるよう指導していく。 ・生徒にどのように指導すればよいか、生徒自身が考えていく教材が大変参考になりました。 ・具体的な事例と理論、体験がセットになっていて、大変わかりやすかったです。 ・ねらいに応じてメディア等を使いこなせるようになることが目標ということがわかって良かったです。 ・情報担当と連携して、校内研修をおこなっていく。 ・便利なもの、楽しいものをルールやマナーを守って、正しく使えるように工夫しながら指導していきたいです。 ・情報モラルについて、多くのアイデアや教材活用の仕方など知ることができました。 ・アナログとデジタルを使い分けて、子供たちが、学び合える授業づくりを行っていきたいです。
沖縄県西原町教育委員会	藤村委員長	・参加した教職員からは、「情報モラルに対しての指導の考え方が変わった」「早く子供たちのために（教材を）活用したい」「全授業で活用できるようにしたい」「ネット＝トラブル防止に目が行きがちだがどう活かしていくか考えることが大切だと感じた」等の感想がアンケートから得られた。 ・昨年度に引き続き２度目であり、また平日の午後１４時からの開催ではあったが、新島教育長含め５０名近い教職員の参加があった。今回も管理職（校長３名、教頭１名）の先生方にもご参加いただき、学校を上げて参加することができたことは、本町のタブレット端末の活用を進めていくことや、必要とされる情報モラル教育を推進する上で、大変意義深く、今後につながるものとなった。特に、「ネット社会の歩き方」の教材を活用した模擬授業ワークショップは、具体的な授業場面や児童生徒の思考場面を考えることに繋がった。

		・セミナーで紹介されたコンテンツ等は、町内教職員で活用しているコミュニケーションツール（電子掲示板）で改めて共有しており、各学校の授業での活用を積極的に進めていきたい。また、職員の入れ替えは毎年あるため、次年度以降も継続してセミナーの開催を行っていくことで、町内教職員の情報活用能力や必要とされる資質能力の底上げを図っていきたい。
愛媛県伊予市教育委員会	三宅委員	・タイトな日程であったが、厳選された内容で講話いただき、さらにワークショップの機会まで設定いただいたことで、参加者は集中して講義を受け、充実した研修会になった。 ・端末の普及・活用が急速に進み、情報を取り扱う際のマナーやきまり等については、トップダウンの指導や「～してはいけない」と抑制する指導になりがちだったので、必要感や実感の伴う情報モラル教育のためには、当事者に考えさせ、望ましい形を見出させることが大切であることや、その方法を知ったことで、この学びを実践につなげたいという意欲を持った方が多かった。 ・今回は、児童生徒理解ということで、生徒指導担当、経験年数の少ない方、希望者という対象で実施したが、情報教育担当者にも周知し、各校におけるサイトや資料の活用を推進していただけるよう、主任会で、今回の研修内容についてお知らせする予定。
大阪府守口市教育委員会	西田委員	・研修参加者は、手元のタブレットを活用した、意見の収集や共同編集でのワークショップ、豊富な情報モラルの教材を活用しての授業案作成のワークショップなどを積極的に行い、非常に充実した時間を過ごしていた。事後の振り返りなどでも、これからの子どもたちが歩いていく社会で情報モラルについてのスキルが必ず必要になることを改めて認識したという感想が寄せられた。 ・本市では、「SNS ノートおおさか」という情報モラル教材を作成し、活用を図っているとおりであり、今回の「ネット社会の歩き方」とともに活用した授業案などを各学校に提供しながら学校での情報モラル教育を進めていく予定としています。今後、活用が進む ICT 機器などを利用する一方で潜むモラルの問題、メディアリテラシーの獲得、セキュリティの担保などの各種問題を教職員並びに児童生徒が学び、主体的に活用できるような支援

		を教育委員会としてやっていきたいと考えています。
千葉県成田市教育委員会	三宅委員	・セミナーの内容について「参考になる」、教材について「活用できる」と、参加者全員が回答しました。後半の自作ペーパーサートの発表の時間に、次から次へと発表者が後を絶たない状態になったことや、「様々な資料を用意してくださり、とても参考になりました。特に「ネット社会の歩き方」は9月からすぐに指導に活かそうなことが多く載っており、このようなサイトを紹介していただけたこともありがたいです。私は4年生を担当しており、会話の中にSNSが出てくるようなこともなく、まだまだ子どもだと感じていますが、常にアンテナを張っておく必要性を感じました。」という感想を書いた教員もいたことから、大変実践的で有意義な研修であったと考えます。 ・今回の研修内容を参加者がそれぞれの校内で広め、全校で各種教材を共有することで、市内のデジタルシティズンシップ教育を推進してまいります。
鹿児島県伊佐市教育委員会	藤村委員長	・情報活用能力について学習指導要領を基に開設していただき、どのような視点で授業をすればよいかわかった。 ・情報モラルのワークショップを通して、人によって言葉の感じ方が違うことが分かった。 ・動画やワークシート、関連のリンクがのっているページがあり、今後ぜひ活用したいと思った。 ・感想等から情報活用能力への理解が深まり、情報モラルについての現状や今後どのように指導していけばよいかがよく分かった。今後は、各学校の教育課程（または指導計画）に位置付けて、計画的に指導していく体制をより整えていくつもりである。
広島県呉市教育委員会	榎本委員	・新型コロナウイルス感染症対策として、オンライン研修で御講演いただきました。最新の情報やすぐに活用できるコンテンツの紹介など、大変有益な御講演をいただくことができました。グループ協議の内容発表の場では、発表者の発言の後に榎本先生が御助言をくださったことで、研修をさらに深めることができました。 ・参加者からは、「どの教材も『今すぐに活用したい!』』と思えるものばかりでした。ぜひ

		活用させていただきます。」「グループでの活動で、教材としてどのように使用するかを先生方と話し合うことができてよかった。」等、今後に向けて前向きな意見が多数ありました。 ・呉市では、一昨年度から、貴法人の御支援をいただき、情報モラル教育の充実を図っているところです。本年度は、各校1名以上の参加に加え、本県に今年度から採用された初任者に本セミナーを受講させており、今後、各校で研修内容を周知させることで、全教職員に本研修内容を普及したいと考えております。情報モラルについての教職員研修は、定期的に行うことが大切だと考えております。是非、次年度以降も御支援をいただきたいと考えております。どうぞよろしくお願い致します。
佐賀県教育庁	藤村委員長	・情報モラルの指導については、新学習指導要領や今後の国の方針を踏まえた解説をしていただき、学校全体で指導を行っていくことの重要性を再確認できた。また、今後の複雑化、多様化した情報化社会を生き抜いていくために児童生徒に必要とされる力である「人間としての強み（板挟みや想定外と向き合い、責任を持って行動する能力）」や「価値を生み出す感性と様々なことを吟味すること」などについても話された。 ・後半のワークショップでは、研修講師を育成するという趣旨に基づき、情報モラルに関するカード教材を用いた授業体験が行われた。参加者一人一人が、カードに記載されている言葉を「言われてうれしい」「言われたら嫌だ」に分け、なぜそのように分けたのかを他者に説明することで、言葉は人によって受け取り方が違うため、SNS上での発言には十分気を付けなければならないことを体験できた。その他、写真の掲載されたカードを用いて、この写真は「ネットにUPしてよいかどうか」を検討する体験、ネット社会の歩き方のHPに掲載されている動画を活用した模擬授業体験等もあった。 ・午前の部を集合研修、午後の部をオンラインで行っていただいたが、講演、ワークショップともに、どちらも同じ内容での研修ができるように工夫していただきありがたかった。 ・受講者からは、「“してはいけないこと”を伝えるだけになりがちな情報モラル研修が多いが、今回の研修では“育てるべき大切な能

		力”の視点からの説明もありとても参考になった。」「具体的で分かりやすく、学校に帰ってすぐに他の職員にも伝達できる内容だった。」「実際に教材を使って様々な体験ができて楽しく学ぶことができた。生徒にも大切なことが伝えやすい教材だった。」などの感想が多く聞かれた。 ・国の GIGA スクール構想などで、全国的に 1 人 1 台端末が整備されるなど、ICT 機器の普及が急速に進んだ。そのような中で、日常的に情報機器に触れる年齢層も低年齢化しており、情報モラル教育の重要性がますます高まっている。佐賀県教育委員会では、県立学校において「情報モラル委員会」を設置し、年間指導計画に沿って各学学校で組織的に情報モラル教育を実施している。また、教員対象の研修として、毎年本セミナーを開催しており、例年は集合研修のみを行っていたが、本年は集合研修とオンライン研修の両方の形で開催した。 ・現在、佐賀県では県立学校は 1 校最低 1 人の参加、小中学校は希望参加としているが、今後も多くの教員へセミナーへの参加を促したいと考えている。
広島県大竹市教育委員会	西田委員	・わが国における青少年のインターネット利用の現状とその問題点を交えつつ、GIGA スクール構想の方向性と学習指導要領との関わりについてわかりやすく丁寧に説明していただき、具体的な実践方法や紹介していただいた教材等は学校現場ですぐにでも実践や活用ができるものばかりで大いに刺激になりました。残念ながら参加者が少なかったですが、その分全員が集中して参加できました。 ・GIGA スクール以降、教育委員会事務局として情報モラル教育に関するテーマでの研修会を初めて実施できました。加えて、外部講師として、全国で活躍されている西田先生をお招きして行えたことはインパクトが大きく、今後の ICT 教育の推進に大きな弾みとなりました。 ・今後は、技術的な環境整備だけでなく、ICT を活用した、個別最適化と協働的な学びをより効果的に推進するため、毎年 1 回は情報モラル教育の全体的な研修を実施したいと考えています。

兵庫県芦屋市立打出教育文化センター	梶本委員	・実際の教材を見せていただいたので、授業のイメージが湧いた。 ・内容や情報量がかなり多く、「情報モラルの意義」や概要についてはよくわかったが、具体的に授業にどう組み込むかをもう少し聞きたかった。 ・小学校に「情報科」の授業はないので、どうカリキュラムに入れるかを聞きたかった。 ・授業づくりのヒントになることを教えていただいた。 ・「ネット社会の歩き方」については、様々な教材が数多くあることが知れたので、今後の実践に生かしやすいと感じた。 ・課題となってくるのはカリキュラムに関してであり、各校の経験カリキュラムを持ち寄って、必要かどうかを取捨選択していきたい。
長崎県雲仙市教育委員会	藤村委員長	・前半の「ネット社会の歩き方」の講演冒頭では、現行の学習指導要領や令和の日本型学校教育をふまえたGIGAスクール構想について話をさせていただいたことで、受講者は、なぜ情報モラル教育の必要性が高まっているのかをより実感しながら受講できた。 ・本セミナーにおいては、本市からの要望に応じていただき、デジタルシチズンシップ教育についても話していただいたことで、受講者は情報モラル教育とデジタルシチズンシップ教育は単なる二項対立的なものでないことについて知り、そして、「大人が規制せずとも、自分で正しく判断して活用できる児童生徒の育成」について意欲を高めることができた。 ・後半のワークショップについてもブレイクアウト機能を利用することで、集合研修と変わりなく活発に議論することができた。 ・情報モラル教育について、専門家の方と教育現場の認識の違いを知ることができました。子供たちが主体的に情報モラルについて考えられるような授業を行っていく必要があると感じました。 ・情報モラルを身に付け、大人が規制せずとも、自分で正しく判断して活用できる子供の姿をイメージして指導に努めたいです。 ・科学的な視点からも、ネット社会で起こり得るトラブルが体感できました。また、資料も

		多数紹介していただき、今後、是非、活用したいと思います。 ・情報モラル教育、デジタルシチズンシップ教育について、わかりやすく教えていただき理解が深まりました。紹介していただいた教材と合わせて先生方に伝達し、授業等で積極的に生かしていきたいと思います。
千葉県総合教育センター	三宅委員	・学校現場で増えてきている課題であると感じていたのも、とても勉強になった。 ・豊富な資料や事例をもとに、学校も情報教育をアップデートしなければいけないと感じた。 ・1人1台端末の時代が現実のものとなり、情報モラルの重要性が怖いほどよくわかりました。全ての教員が情報モラルの重要性を理解しなければならないと感じました。 ・保護者が買え与えたスマートフォンへの対策ととらえるのではなく、GIGA端末を含めたデジタルをうまく活用していくための教育と考える必要があると感じました。 ・多数の資料を用意していただき、ありがたかったです。時間が足りなかったのか、早口で急いでいる感じであったので、今後設定を検討されるとよいと思いました。 ・情報モラルについて、多面的な視点で考えることができた。特に、日々進歩し、複雑化しているネット社会においては、トップダウン型の情報モラル教育を行うのではなく、児童生徒に考えさせ、臨機応変に対応できる力を育てるボトムアップ型の学習が重要になっていると実感した。当センターでは、県内の教職員に対して研修を行っている。講師の先生から提供いただいた資料について、必要に応じてそれらの研修においても活用したい。また当センターの所員は、数年後、学校現場に戻ることになる。この研修で学んだ内容を学校現場にて学校経営や学校運営に生かしていきたいと考えている。
鹿児島県総合教育センター	西田委員	・クラウドサービスを活用し、多くの意見交換ができとても参考になりました。 ・ICT活用のよさを実感しながら受講することができてよかったです。

		・児童生徒，保護者に情報モラルについて考える際の分かりやすい教材が多くあることが分かりました。是非活用したいと思います。 ・授業で実践できる内容がたくさんあり，とても参考になりました。とても分かりやすくあっという間に時間が過ぎました。 ・今回学んだことを学級のホームルームや学級PTAで生徒や保護者に対して，情報モラルについて話をしたいと思います。 ・今回のセミナー参加者の中心は，情報教育のリーダーとなるべき人材育成を目的とした通年による継続研修（年間20回のインターバル研修）の受講者であることから，今後は参加者の所属校における還元研修として，今回の内容を行うようにします。また，当教育センターの所員も参加していることから，本センターで実施する情報モラル教育等に関する講座などにおいて積極的に活用するとともに，各教科・領域及び生徒指導・教育相談等に関わる研修講座と関連付けながら，講座内容に取り入れていきたいと考えています。
福岡県嘉麻市教育研究所	藤村委員長	・講演は初めに令和の日本型学校教育に向けて、GIGA スクール構想はどうして必要なのかという根本からお話いただくことで、1人1台学習用端末の導入の意義を確認することができた。参加者はその後の講演内容に関して具体的なイメージを持ち、研修会に参加することができていた。藤村様の講演内容は実際の学校現場レベルで考えても、即座に取り組みに活かすことができるもので大変勉強になるものだった。 ・研修会終了後は校内研修への落とし込み方や授業等への活用について話し合う参加者の姿が見られた。後日、参加者に話を伺うと、多くの参加者が公演中に藤村様にご提示いただいた諸資料を教職員で共有しているとのことであった。今後の嘉麻市における情報教育の推進に向けて、とても有意義な研修会であった。 ・現在の学校教育においてはGIGA スクール構想における児童生徒への端末の配備や情報化社会の発展などの観点から情報モラル教育をはじめとした情報教育の重要性が高まっている。 ・嘉麻市においては今回共催となった嘉麻市情報教育推進協議会を中心に、市内小中学校で共通の指針となるカリキュラムの提示や各学

		校の実態に最適化された情報教育を進めることが重要であるため、各学校の担当者レベルでの活発な情報交換・意見交流の場を設定することを考えている。
愛媛県西条市教育委員会	藤村委員長	・該当分野の第一人者であり、以前から様々なご指導をいただいている藤村先生にご講演いただけたのは大変有難かった。講演部分は、GIGAスクール構想の意義の説明から入り、前半は、1人1台端末を活用することが前提の情報モラルの在り方についての講義、後半は、講義内容を踏まえた教材の紹介や、これを利用したワークショップを実施した。 ・終了後、藤村先生の話をもう一度聞きたい、再度、同様の研修を実施して欲しい等の要望が市教委宛に寄せられ、参加者において講演が大変、好評であったことが伺えた。 ・参加者には、今回の講演で得た知見を各学校へ持ち帰って広く共有していただき、1人1台端末を活用することが前提の情報モラルの在り方を各学校で広めていただくことが期待される。今後も、定期的に研修を実施することで、児童生徒への指導のノウハウの定着を図り、情報モラルに関する市内全体の底上げを図りたい。
長崎市教育委員会教育研究所	西田委員	・長崎市では情報活用能力育成のための学習内容について、国の体系表等をもとに共通の指導目標「ながさきモデル」や授業ですぐに活用できる「情報モラル・セキュリティに関する教材整理表(ながさきモデル)」を作成しており、各校のカリキュラム・マネジメントに活かしてもらっている。 ・本日の「ネット社会の歩き方」研修会を終え、参加した先生方からは「授業に実際に活用できるものばかりだった。」や「職員研修や保護者向け研修、新入生説明会等に役立てたい。」などの感想をいただいている。 ・今回の研修会は各学校でGIGAスクール構想を推進する担当者が参加しているため、各学校での伝達研修を推奨し、児童生徒の情報活用能力育成につなげていきたいと考えている。

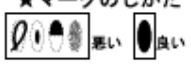
(3) 受講者へのアンケート

セミナー内容を改善するために受講者へ下記アンケートを実施した。

図表 1 2 受講者向けアンケートシート（おもて）



★マークのしかた





「ネット社会の歩き方」情報モラルセミナー アンケート

「ネット社会の歩き方」情報モラルセミナーを受講いただきありがとうございます。ご意見・ご感想を聞かせてください。

選択式の回答は、該当箇所のマーク○を塗りつぶしてご回答ください。
 ○: 空白マーク ●: 正しいぬりつぶし /: 不十分なぬりつぶし

記述式の回答は、回答欄からはみ出さないように記入してください。
 この用紙は機械で処理します。回答欄以外に書き込みをしたり、用紙を汚したり、折り目を付けたたりしないように注意してください。

- (1) 【択一選択設問】あなたの性別は？
☐ 男 ☐ 女
- (2) 【択一選択設問】あなたの年齢は？
☐ 20～29歳 ☐ 30～39歳 ☐ 40～49歳 ☐ 50～59歳 ☐ 60～69歳 ☐ 70歳以上
- (3) 【単一選択設問】あなたの所属についてお伺いします。以下の項目から、あなたの所属に合うものを1つ選んでください。（1つにマーク）
☐ 小学校 ☐ 中学校 ☐ 高等学校 ☐ 特別支援学校 ☐ それ以外の学校
☐ 行政 ☐ その他
- (4) 【単一選択設問】あなたの職名についてお伺いします。以下の項目から、あなたの職名に合うものを1つ選んでください。（1つにマーク）
☐ 校長 ☐ 副校長 ☐ 教頭 ☐ 教諭 ☐ 指導主事 ☐ その他
- (5) 【複数選択設問】あなたの分掌分野についてお伺いします。あなたの分掌分野に合うものを選んでください。（複数回答可）
☐ 教科指導 ☐ 生徒指導 ☐ 教務 ☐ 情報教育 ☐ 研修 ☐ その他
- (6) 【複数選択設問】あなたの担当教科についてお伺いします。あなたの担当教科に合うものを選んでください。（複数回答可）
☐ 小学校 ☐ 情報 ☐ 技術家庭 ☐ 国語 ☐ 社会 ☐ 数学
☐ 理科 ☐ 英語 ☐ 音楽 ☐ 美術 ☐ 書道 ☐ 保健体育
☐ その他
- (7) 【単一選択設問】これまで受講された研修についてお伺いします。過去に、今回のような情報モラル指導者を養成する研修会に参加したことがありますか。（1つにマーク）
☐ ある ☐ ない
- (8) 【単一選択設問】これまでの情報モラル研修への関わり方についてお伺いします。過去に、情報モラルに関連したセミナー・研修の企画や講師を行ったことがありますか。（1つにマーク）
☐ ある ☐ ない

→次ページに続く



1 / 2
情報モラルセミナー
アンケートシート
(2017年度)



図表 1 3 受講者向けアンケートシート（うら）

★マークのしかた



(9) 【複数選択設問】受講動機についてお伺いします。本セミナーへの受講動機として該当する項目の番号を選んで下さい。（複数回答可）

☐ 情報教育の担当をしているため
 ☐ 情報モラル指導のレベルアップのため
☐ 上司から受講の指示、勧めがあったため
 ☐ その他

(10) 【単一選択設問】セミナーの内容についてお伺いします。今後、みなさんが情報モラル研修会を実施する際に今回のセミナーが参考になると思うか、【参考度】をお答えください。（1つにマーク）

☐ 参考にならない
 ☐ あまり参考にならない
 ☐ やや参考になる
 ☐ 大変参考になる

(11) 【自由記述設問】今回のセミナー内容に関してご意見・ご感想がございましたら、ご記入ください

(12) 【単一選択設問】セミナーの教材についてお伺いします。今後、みなさんが情報モラル研修会を実施する際に今回紹介した教材が活用できると思うか【活用度】をお答えください。（1つにマーク）

☐ 活用できない
 ☐ あまり活用できない
 ☐ やや活用できる
 ☐ 大変活用できる

(13) 【自由記述設問】今回ご紹介した教材に関してご意見・ご感想がございましたら、ご記入ください

(14) 【単一選択設問】今回のセミナーで得られた情報の展開についてお伺いします。本セミナー以降に、校内などでセミナー、研修会など開催する予定はありますか。あなたの考えに合うものを1つ選んでください。（1つにマーク）

☐ セミナー、研修会などの開催する
 ☐ 現時点で予定はないが、可能な規模・内容で計画したい
☐ セミナー、研修会など開催の予定はない
 ☐ その他

(15) 【自由記述設問】開催を計画、予定されるセミナーや研修会はどのようなものでしょうか、ご記入ください

(16) 【自由記述設問】最後に、全体を通してご意見・ご感想がございましたら、ご記入ください

アンケートへのご協力ありがとうございました。

2 / 2
情報モラルセミ
ナーアンケート
(2014年度)




1) 受講者プロフィール

セミナー受講者のプロフィールを図表 14 から 18 にまとめた。

① 性別年代別受講者数

どの年代においても、男性受講者の方が多い。年代別では、20、40 歳台が多かった。

図表 1 4 性別年代別受講者数（単一選択）

	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳代	無回答	合計
男性	75	49	62	50	10	0	1	247
	31%	20%	25%	20%	4%	0%	0%	
女性	37	20	30	25	5	0	1	118
	31%	17%	25%	21%	4%	0%	1%	
無回答	0	0	0	0	0	0	269	269
合計	112	69	92	75	15	0	271	648
	18%	11%	14%	12%	2%	0%	42%	100%

② 学校種別受講者数

全国の学校種別の教員の人数が、小学校：中学校：高等学校＝3：2：1であることを鑑みると、小学校の教員の受講比率が大きくなってきている。また、無回答も増えている。

図表 1 5 学校種別受講者数（単一選択）

学校					行政	その他	無回答	合計
小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	その他の学校				
152	96	53	8	1	58	4	261	647
23%	14%	8%	2%	0%	8%	1%	40%	100%

③ 役職別受講者数

一部の熱心な校長先生が受講されているが、通年では教諭が圧倒的に多い。その他は、行政職か ICT 支援員である。

図表 1 6 役職別受講者数（単一選択）

校長	副校長	教頭	教諭	指導主事	その他	無回答	合計
38	7	19	2371	48	39	109	645
5%	1%	2%	57%	7%	6%	16%	100%

③ 分掌分野別受講者数

勤務校で情報教育を担当されている先生が多いが、2020 年 4 月から新学習指導要領の全面实施となったことと GIGA スクール構想のため、「生徒指導」担当の先生も多い。また、その他が多いのは学校運営管理業務や行政職と予測される。

図表 1 7 分掌分野別受講者数（複数選択）

教科指導	生徒指導	教務	情報教育	研修	その他	合計
88	210	85	152	62	92	689
13%	31%	12%	22%	9%	13%	

⑤ 担当教科別受講者数

担当教科別に特に偏りは無い。

その他は、管理職もしくは行政職・ICT 支援員と予測される。

図表 1 8 担当教科別受講者数（複数選択）

小学校	情報	技家	国語	社会	数学	理科
145	10	17	15	28	33	40
英語	音楽	美術	書道	保健体育	その他	合計
21	8	3	3	18	60	401

2) 受講者のこれまでの情報モラル研修との関わり

セミナー受講者のこれまでの情報モラル研修との関わりを図表 19 から 21 にまとめた。

① 過去の受講経験

過去に情報モラル研修を受講したことの無い先生の方が多かった。

図表 19 過去に、情報モラル指導者を養成する研修会に参加したことがあるか（単一選択）

ある	ない	無回答	合計
163	210	261	648
25%	32%	40%	

② 過去の講師経験

過去に情報モラル研修を企画したことが無い先生の方が多かった。

図表 20 過去に、情報モラルに関連したセミナー・研修の企画や講師を行ったことがあるか（単一選択）

ある	ない	無回答	合計
38	323	273	648
5%	49%	42%	

③ 本セミナーの受講動機

「上司からの指示」の割合は少なくなっているが、積極的に受講されている先生は少ないと思われる。その他は悉皆研修となっているセミナーの参加者と予測される。

図表 2 1 本セミナーの受講動機（単一選択）

1：情報教育の担当をしているため	139	21%
2：情報モラル指導のレベルアップのため	135	20%
3：上司からの指示があったため	108	16%
4：その他	91	14%
回答数	468	

3) 本セミナーに対する評価

セミナー受講者のセミナー評価を図表 22 から 23 にまとめた。

① 本セミナーは、今後の情報モラル研修会実施上の参考になるか。

80% の受講者が有用と考えている。

図表 2 2 本セミナーの有用度（単一選択）

参考にならない <<<<<< 参考になる			
1	2	3	4
94	1	91	287
20%	0%	19%	61%
		3or4 の回答比率	
		80%	

② 本セミナーで利用した教材は、今後の情報モラル研修会に活用できるか。

96% の受講者が教材を活用できると考えている。

図表 2 3 本セミナー教材の有用度（単一選択）

活用できない <<<<<< 活用できる			
1	2	3	4
13	2	81	277
3%	1%	22%	74%
		3or4 の回答比率	
		96%	

4) 今後のセミナー開催予定

セミナーの開催を具体的に考えている先生が少ないことは今後の課題と考えている。

図表 2 4 今後のセミナー開催予定（単一選択）

1. セミナー、研修会などの開催する	59	10%
2. 現時点で予定はないが、可能な規模・内容で計画したい	387	68%
3. セミナー、研修会など開催の予定はない	99	17%
4. その他	25	4%
回答数	570	

4. 教育の情報化推進フォーラム

当事業の活動内容を広く広報するための、2022年度 教育の情報化推進フォーラムでは、国立オリンピック記念青少年総合センター会場での開催を4年ぶりに実施した。また、フォーラム終了後にアーカイブ配信も実施した。今回は「GIGA スクール端末で学ぶ情報モラル」と題して分科会を実施した。

分科会の概要は以下の通りであった。

- ・開催日時 令和5年3月3日（金） 15時30分～16時30分
- ・会場 国立オリンピック記念青少年総合センター カルチャー棟 小ホール
- ・役割分担 コーディネーター：藤村委員長
パネリスト：榎本委員、西田委員
- ・来場者数 127名
- ・趣旨 「GIGA スクール端末で学ぶ情報モラル」
- ・パネル討論内容

1) コーディネーター：藤村委員長

問題提起（新学習指導要領での変更点とGIGA スクール構想で求められること）

- ・主体的・対話的で深い学びによる情報モラル教育
- ・デジタルシチズンシップとの関係性
- ・GIGA スクールによる持ち帰り時の約束・セキュリティ教育の必要性
- ・自主的・自律的な情報モラルの育成（児童生徒によるルール作り・ネット自治の例）

2) パネリスト

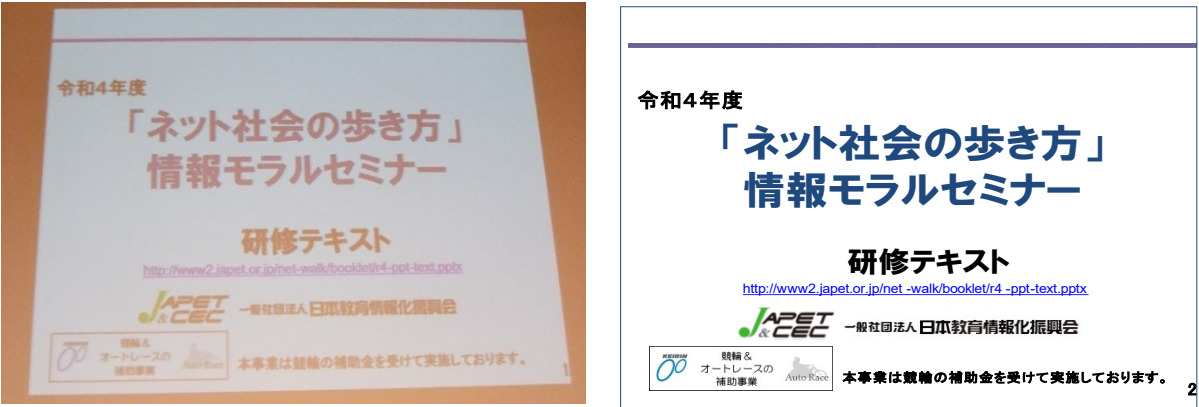
- 西田委員：GIGA スクールで求められる持ち帰り時の約束・セキュリティ教育、SNS 教材、
ペープサート教材を活用した主体的・対話的で深い学び

- ・活用のポイントと活用事例、問題の事例とその対応
- ・ID／パスワード管理等セキュリティ教育の必要性
- ・1人1台端末だからこそ必要になる情報モラル教育の例

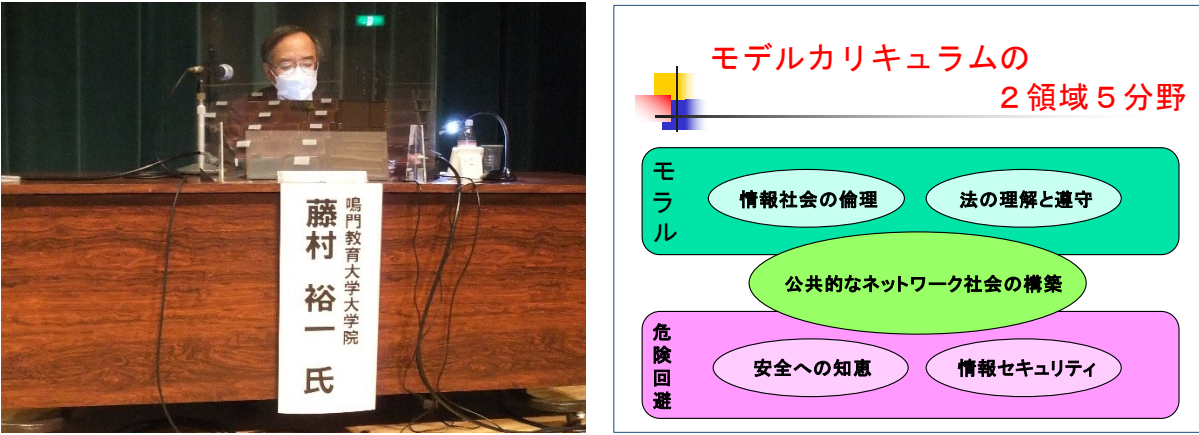
- 榎本委員：最近の問題状況と中・高で使えるような図鑑・動画教材の効果的活用の紹介

- ・図鑑（低中学年用も含む）/動画教材のねらいと活用法
- ・中高生を対象とした教材の例
- ・PC 持ち帰り時の約束事例

図表 3 0 パネルディスカッションの様子（セミナー開始・登壇者全員）



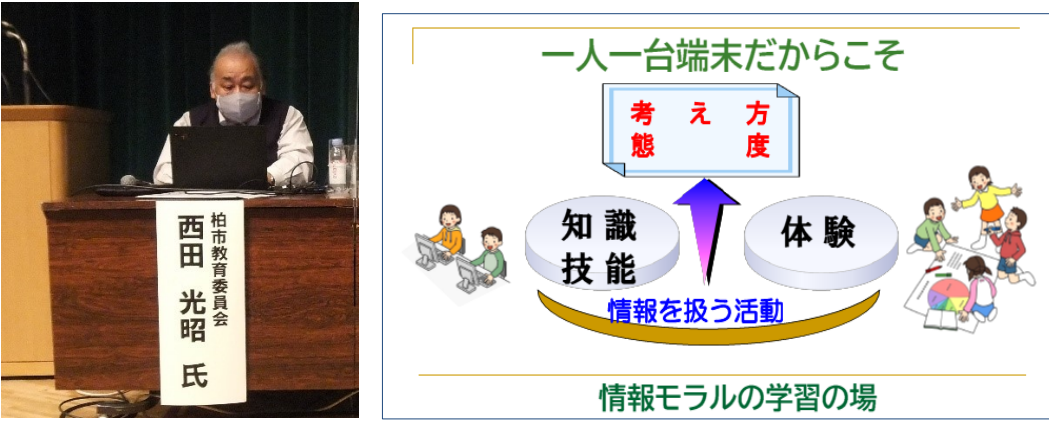
図表 3 1 パネルディスカッションの様子（藤村委員長）



図表 3 2 パネルディスカッションの様子（榎本委員）



図表 3 3 パネルディスカッションの様子（西田委員）



図表 3 4 パネルディスカッションの様子（会場の様子：前方から）



図表 3 5 パネルディスカッションの様子（会場の様子：後方から）



図表 3 6 教材の紹介

ギガ端末の安易な貸し借り

あれちょっとだけ貸してくれない？ 調べたいことがあって...

でも、ハヤト君の名前で書かれてます！

あなたの意見を自由に書き込みましょう

ユメノさんは、あんな簡単なヒントに気がつかないなんて、バカだなと思いました。

「バカだなと思いました」...って、返信！

返信

返信

返信

返信

返信

ペーパーサート教材

1. 人物の表情や背景、情報機器、吹き出し等を一覧形式で収集し
2. 素材を選択して組み合わせ4コマ漫画にまとめる
3. セリフやナレーションを書き入れる

効率よく情報モラル教材を制作する環境の提供。

ペーパーサート(紙人形芝居)

岐阜聖徳学園大学教育学部 石原 一彦 JAET2022 資料より

5. 今年度作成したコンテンツの概要

(1) 新規学習ユニット10テーマ

アニメーションで様々な事象を確認しながら、情報モラルについて学習できるようになっている。

① 公式サイトで購入したはずなのに

<校種>

小中高・保護者

<教科>

ホームルーム・総合・技術家庭・情報

<学習内容>

偽ブランドサイトを見分ける方法を消費者庁等のページから調べて、実践的に理解する。



② あやしい脅迫状

<校種>

中高+保護者

<教科>

ホームルーム・総合・技術家庭・情報

<学習内容>

コンピュータ上のファイルを勝手に暗号化して身代金を要求するランサムウェア。

サイバー犯罪に巻き込まれる危険への予防と対応策を知る。



③ 本当に中学生？会って大丈夫？？

<校種>

小中高・保護者

<教科>

学級活動・総合・生活



<学習内容>

SNS の中には匿名で会話ができるトークルーム機能がある。気軽に参加できる一方、リスクもある。どのような特性があるか、またどのようなトラブルが起こりやすいか考えることで、より良い使い方について考えるきっかけにする。

④知らぬ間に情報操作？

<校種>

中高

<教科>

学級活動・道徳・総合

<学習内容>

インターネットには、利用者の検索履歴や閲覧などから、利用者の望む情報を優先的に表示したり、関連した情報を提供したりする機能がある。異なる情報が入らなくなり、特定の意見や思考に傾倒してしまい、他の意見や思考を受け入れなくなる危険性を学ぶ。



⑤「ちょっと貸して」はやめましょう

<校種>

小中

<教科>

学級活動・生活・道徳

<学習内容>

ログインした状態で他人に自分の端末を使わせることは、なりすましや匿名によるいたずらに使用されることがある。端末の貸し借りは危険が伴うことを理解する。



⑥あなたの“正しさ”を押しつけないで！

<校種>

小中

<教科>

ホームルーム・総合・生活

<学習内容>

自分の中では正しいと考え、良かれと思った行動は、相手にとって必ずしも有用とは限らないことを知る。



⑦タブレットを上手に使おう

<校種>

小

<教科>

学級活動・総合・生活

<学習内容>

学校や家庭でタブレットを使うときに気を付けることを考える。



⑧情報モラルの指導ってどうやるの？

<校種>

小中高

<教科>

教職員研修

<学習内容>

ネット社会の歩き方の教材を活用した授業モデルを知り、授業で実践ができるようにする。



⑨情報モラルって自分でも学べるの？

<校種>

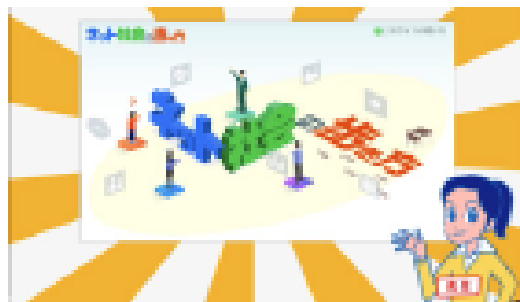
小中校・保護者

<教科>

家庭

<学習内容>

自主学习や家庭学習で情報モラルを自ら学ぶための「ネット社会の歩き方」の活用方法を学ぶ。



⑩「知る権利」より「忘れられる権利」？

<校種>

小中高

<教科>

学級活動・社会・公民

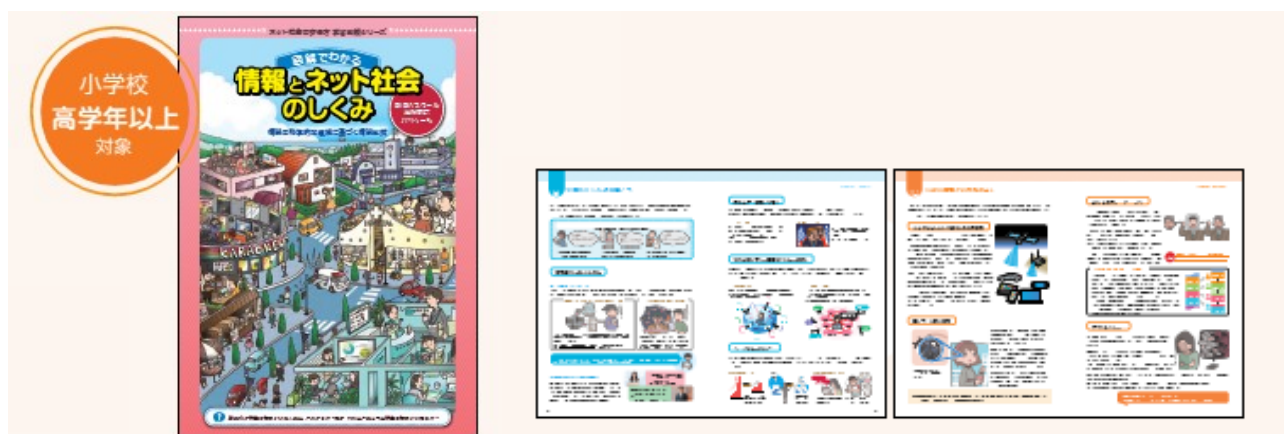
<学習内容>

情報社会において「知る権利」と「忘れられる権利」がどちらが優先されるべきか考える。



●情報とネット社会のしくみ（小学校高学年以上対象）

小学校高学年以上を対象とした図鑑型教材。GIGA スクール構想に対応し、「情報」の科学的理解を深め、ネット社会への対応力を育てることを目的としています。令和5年版では、情報を正しく読み解くポイントや、技術の進歩によるインターネットの注意点を新たに盛り込んでいます。



●情報とネット社会のしくみ（小学校低中学年対象）

小学校低中学年を対象とした、情報とネット社会について図鑑形式で学べる教材。「情報の科学的理解」に焦点を当て、情報機器の仕組みやその特性に基づく安全な使い方を紹介しています。



●「ネット社会の歩き方」ナビゲーター（サイト内教材検索機能）

ネット社会の歩き方のトップページから収録された教材のキーワード検索が可能になりました。教科や校種の絞り込みや、予め用意したテーマからの検索も可能です。さらに、検索結果に表示された教材の関連キーワードから、再検索も可能です。



6. まとめ

近年のICT機器の進展は目覚ましく、個々のハードウェアやソフトウェアに対応した情報モラル教育は事実上不可能になっている。学校教育でよく言われる「流行と不易」を、教える側が良く考え取り組む必要がある。

スマートフォン、携帯ゲーム機の普及により、平易にいつでもどこでもインターネットを利用できる環境が子どもたちに急速に拡大した。それらの変化により誹謗中傷や言葉不足からのいじめ、ネット犯罪の被害や更に加害者となる事例、生活に支障をきたすまでのネット利用などの事例が更に深刻化した。今回の事業は、子どもたちに有効な情報モラル指導を実施させ、充実したコミュニケーションを取れるための指導を行い、更にネット依存の手前で立ち止まるための指導を行えるための対策とした事業を実施した。

ここにおいて、公益財団法人JKAの補助金を原資として、日本教育情報化振興会が情報モラル指導の教材開発と教員向けセミナーを開催することは非常に社会的に価値があると考えている。文部科学省の学習指導要領に基づいた「不易」の部分に関する指導方法の研修と、マスコミへの掲載記事に基づいた「流行」の部分に関する最新の事故、事件、リスク回避方策の伝達は、日々児童・生徒と接している教員にとって指導時の参考になっている。

日本教育情報化振興会では、「不易」な面での道徳を中心とする「心を磨く」領域の教材提供に特に力を入れていきたい。一方で、「流行」の面では情報を中心とする「情報の知識」「情報の理解」領域の教材提供に力を入れていきたい。来年度は、教員向けセミナーの開催（31ヶ所）と新しい問題や事件に対応した学習教材の開発を予定している。教育委員会よりセミナーの開催数の増加の要望もきているため、できる範囲で対応していきたいと考えている。

また、新規開発予定の教材の特徴については、以下の通りである。

- ① 動画ユニット教材新規開発（10本）
- ② ネット社会の歩き方版グループワーク用コンセンサス（合意形成）
 - ・カードゲーム（例：NASAゲーム）「
- ③ ペーパースート教材幼児向けイラスト素材増強

最後に、少しでも多くの教員が情報モラル指導を実践できるよう、日本教育情報化振興会および委員全員が啓蒙活動に邁進する所存である。

以 上

第2章

コミュニケーション力育成のための事業

1. 事業の目的

2020年度から全面実施された小学校学習指導要領では、情報活用能力が言語能力に並ぶ「学習の基盤となる資質・能力」と位置付けられている。また、中央教育審議会（2016）幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）において、「情報活用能力とは、世の中の様々な事象を情報とその結び付きとして捉えて把握し、情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用して、問題を発見・解決したり自分の考えを形成したりしていくために必要な資質・能力のこと」としている。

そして、情報活用能力の重要性が最初に指摘されてから、すでに30年以上経過しているが、教員の認知度は決して高いとはいえない状況である。

また、様々な情報活用能力に関する表や整理が出ているが、「分かりにくい」「使いにくい」という声を聞く。さらに、自治体や研究会が作成しているものが乱立していて、「拠り所がわからない」という声も聞く。

このような状況の中本委員会では、現場の先生方が子どもたちの情報活用能力を育成する学習を行うために、参考となる指導指標を開発することやその指導指標を学校現場で活用してもらう、普及することを本事業の目的とした。

2020年度に、授業の構想及び実践に資する学習のプロセスに情報活用能力を位置づけた指導指標を開発し、それを「情報活用能力ベーシック」と名づけた。「情報活用能力ベーシック」は、学習指導要領をはじめ、文部科学省が公開している関連文書を対象に、「情報活用能力ベーシック」に適合するキーワードを抜き出し、整理したものである。

2021年度は、「情報活用能力ベーシック」を、小学校の教科における低中高別に整理したものも含め、学校現場の先生方がより活用しやすいかたちにまとめたものが「情報活用能力を育む授業づくりガイドブック」である。

また、模擬授業については、この情報活用能力ベーシックに基づき、授業として具現化する場面を創出し、委員会で検討を重ね、教員が情報活用能力育成をイメージできる模擬授業として開発した。

2022年度は、「情報活用能力ベーシック」を、中学校の教科において整理したものも含め、学校現場の先生方がより活用しやすいかたちにまとめたものが「情報活用能力を育む授業づくりガイドブック中学校版」である。

また、模擬授業については、この情報活用能力ベーシックに基づき、授業として具現化する場面を創出し、委員会で検討を重ね、教員が情報活用能力育成をイメージできる模擬授業として開発した。

今後、様々な地域やイベントで広く模擬授業を実施していく予定である。さらに、授業で活用されることを期待する。

本委員会は、研究者、教育委員会担当者、校長、教員、そして事務局の教育情報化振興会が一丸となって、本事業を進めてきた。この冊子や取り組みが、子どもたちの情報活用能力育成に寄与することを願う。

2. 作業項目とスケジュール／作業体制

(1) 作業項目とスケジュール

作業項目とスケジュールは下記の通りである。

図表1 作業スケジュール

	2022年									2023年		
作業項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
委員会開催		▼①					▼②					
		29					10					
教科別能力表開発	▲-----											
セミナー開催					▼①		▼②		▼③④		▼⑤	▼⑥
					4, 5		29		17, 27		25	3, 4
					大阪		愛知		札幌 鳥取		福岡	東京
授業研究学校 訪問											▼①②	
											3, 4	
											船橋、熊本	
冊子教材制作	▲-----▼											

(2) 委員会の設置

本事業では有識者で構成する「情報活用能力育成検討委員会」を組織して作業に取り組んだ。全3回の委員会と2回のWG会議を計画し、作業スケジュールの策定、情報活用能力に関する能力表作成の検討及び作成等、本事業の全体を管理した。

また、情報活用能力に関する能力表の冊子教材の実作業、セミナー開催準備等は事務局が担当した。

図表2 委員一覧

所属	役職及び氏名
放送大学※	教授 中川 一史（委員長）＊
茨城大学※	准教授 小林 祐紀（副委員長）＊
放送大学※	客員教授 佐藤 幸江＊
東北学院大学文学部	教授 稲垣 忠
熊本大学大学院教育学研究科	特任教授 前田 康裕＊
船橋市立葛飾小学校	校長 秋元 大輔

鳥取県教育センター GIGA スクール推進課	係長 岩崎 有朋
柏市立手賀東小学校	校長 佐和 伸明
金沢学院大学文学部教育学科	元専任講師 山口 眞希
金沢大学人間社会学域学校教育学類附属小学校	教諭 岡本 光司
浜松市立浅間小学校	教諭 菊地 寛
北海道教育大学附属函館中学校	教諭 郡司 直孝
熊本市教育委員会 総合支援課 学校サポート班	指導主事 宮津 光太郎

(注) ※：WG メンバー

図表 3 事務局等の体制

所属	役職及び氏名	役割
一般社団法人日本教育情報化振興会	常務理事・事務局長 中沢 研也	責任者
同上	事務局次長・調査研究開発部 部長 吉田 真和	総括・セミナー 対応
同上	普及促進部 担当部長 渡邊 浩美	連絡窓口・全体 企画・運営・セ ミナー対応

(3) 委員会開催

委員会開催の他、メールによる検討・決議を行った。委員会の開催日、議題は下記の通りである。

今年度は、新型コロナウイルスの影響により、すべてオンライン開催となった。

図表 4 委員会開催実績(全日程オンライン開催)

開催回数	開催日	議題
第 1 回	2022. 5. 29	・今年度の活動方針（中川委員長） ・予算化の活動について（事務局渡辺） ・情報活用能力指導調査について（稲垣委員） ・情報活用能力手引き書作成について（小林委員） ・情報活用能力ベーシック（中学校編）の開発について ・情報活用能力ベーシック活用例の収集 ・情報活用能力育成のための教員研修パッケージ開発について ・セミナーの実施について ・全体スケジュールについて

第2回	2022. 10. 10	・ 中学校情報活用能力ベーシック開発について検討 ・ 中学校情報活用能力ベーシックパンフレット制作 ・ 2022年度単独開催セミナープログラム検討 (1) 開催地及びご登壇者について (2) 各セミナープログラムと時間について (3) タイムスケジュールについて (4) 集客 (5) 旅費精算等についての事務手続き等について ・ 全体スケジュールについて
-----	--------------	--

3. 情報活用能力を育む授業づくりガイドブック

2020 年度に、学習プロセスに情報活用能力を位置づけた指導指標である「情報活用能力ベーシック（小学校）」を開発し、2021 年度は「情報活用能力ベーシック（小学校）」を活用した「情報活用能力を育む授業づくりガイドブック（小学校編）」を制作した。2022 年度は「情報活用能力を育む授業づくりガイドブック（中学校編）」を制作した。

以下の 3 つの柱となる。

- (1) 主要 5 教科の情報活用能力ベーシックを開発
- (2) 学校研究における活用／教育委員会における活用
- (3) 情報活用能力を育む授業事例として、5 教科の情報活用能力ベーシックを活用した実践事例



図表 5 1 ページ 表紙 J K A 補助事業マークを掲載

英語

教科の特性

学習内容について、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等を考え具体的な課題を設定します。そして、その目的や場面、状況等に応じて、情報を収集し、さらに収集した情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築する場面を用意します。その後、相手意識や目的意識を大事にしながら考えをまとめたり表現したりする学習活動に取り組めます。最終的に、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことといった言語活動を通して、実際に英語を用いてコミュニケーションを図るための資質・能力について、振り返る学習活動を設定することが重要です。

●課題の設定

課題に示されたコミュニケーションを行う目的や場面、状況等を理解し、実際に英語を用いて互いの考えや気持ちを伝え合うための方向性を決め、学習の進捗を立てる。

●情報の収集

コミュニケーションの目的や場面、状況等に応じて、何を聞かなくてはならないか、読み取るなければならないのか、伝えなければならないかを判断し、聞いたり読んだりすることによって情報を収集する。

●整理・分析

得られた情報について、コミュニケーションの目的や場面、状況等に応じて整理したり、精査したり、

際にもっている知識と照らし合わせて関連付けたりして、話したり書いたりするために活用する。

●まとめ・表現

既習の表現等を駆使しながら、実際に英語を用いて生徒自身の考えや気持ちを理由等と共に伝え合ったりする。また、事実を伝えたり、出来事を描写したり、考えを述べたり、気持ちを伝えたりして表現する。

●振り返り・改善

言語活動を通して、自分の英語運用能力や自分の考えの深さについて、自ら学習のまとめを行ったり、振り返りを行ったりする。

「情報活用能力ベーシック」を活用し、作成した情報活用能力体系表

鳥取県教育委員会では「情報活用能力ベーシック」を活用した情報活用能力体系表を作成しています。

<https://www.pref.tottori.lg.jp/297526.htm>



R4 年度とつり ICT 活用
ハンドブック増補版（後半）
の P23 ~ P24 に掲載

（２）学校研究における活用／教育委員会における活用

広がる情報活用能力ベーシックの活用

情報活用能力ベーシックを公開して以降、教員個人だけではなく、学校研究や自治体の教員研修においても活用されるようになってきました。

学校研究における活用

情報活用能力について共通理解するために

学習指導要領において、情報活用能力が学習の基礎となる資質・能力に位置付けられたことにより、情報活用能力の育成を校内研究のテーマとして扱う学校が増えてきました。校内研究で成果をおげるためには、研究のねらいや内容、評価方法について全員が理解する必要があります。しかし、これまで情報活用能力に関しては、教師各々のイメージや理解の仕方によって進めていることが多かったのではないのでしょうか。「情報活用能力ベーシック」でプロセスやねらいを共通理解することは、全体での授業検討や評価を進める際に役立つものといえます。

学校研究における活用

情報活用能力を確実に育成するために

研究を進めるためには、情報活用能力を育成するための年間指導計画が必要で、そのために、学習単元において、どの授業のどの場面でのどのプロセスを重視するのかについて考え、論理理由を作成します。これを用いて、5つの学習プロセスを年間指導計画に落とし込んで活用していきます。また研究授業の際には、各教科等で提示されている内容と、本時の展開で情報活用能力の育成のために取り組む内容が一致するかを検討し学習指導案を作成します。さらに、5つのプロセスに合わせたアンケートを実施することで、児童の実態把握に努めるようにします。

教育委員会における活用

情報活用能力を意識した指導を実現するために

指導助言等で学校に訪問した際、このガイドブックを授業研究の共通項として扱います。本時は5つの学習プロセスのどこにあるのか、そもそもこの単元設計は5つのプロセスが含まれているのかといったことをガイドブックと照らし合わせながら確認します。特に単元を通した情報活用能力育成のためにも、プロセスの視点は重要です。さらに教科のねらいを達成する取り組みと合わせて、本時で育むべき情報活用能力の育成の場が並行して組み込まれているのかを確認する際にも活用できるでしょう。

教育委員会における活用

若手教師の授業力を向上するために

若手教員や教員を目指す学生の中には、「情報活用能力を育成する授業」といわれても、児童生徒の具体的な学習活動をイメージすることが難しい方もいるのではないのでしょうか。そんな皆さんには、このガイドブックに示されている「自分の考えを形成する」「学習した内容を自分の言葉でまとめる」などを、その末末児童生徒の学習活動として計画・展開することをすすめます。そして、1回の授業ではなく、5つの学習プロセスを、さまざまな場面に取り入れ続けることも大切です。

(3) 情報活用能力を育む授業事例として、5教科の情報活用能力ベーシックを活用した実践事例

情報活用能力を育む授業事例

事例の見方・使い方

先生方は、日頃、学校教育目標や教育課程、各教科の年間指導計画に基づき、さらに、目の前の子どもたちの実態を把握し、当面している教育課題の解決をめざして、授業設計を行っていることでしょう。ただ、今、子どもたちを取り巻く社会や生活環境が、著しく変化してきています。特に、地球規模の課題や多様な社会の情報化は、これからを生きる子どもたちに、探究的な学習活動を通して情報活用能力育成の必要性を示唆しています。

ところが、どのように授業改善をしていけばよいか、悩まれているという声を多く耳にします。そういう先生方に、ぜひこのガイドブック、特にここからの『授業事例』をご活用いただければと思います。

1. 情報活用能力育成をめざす単元づくりの項目では、単元づくりのねらいや見解のアイデアを、2. 教科における情報活用能力ベーシックと本時の「13のキーワード」では、各教科の指導内容を情報活用能力に読み替え、ここで扱う重要な要素について記述しています。また、4. 本時展開の「主な学習活動」では「習得」の学びの形態を、「指導上の留意点」では「指示・確認内容」「端末の使い方」を明記しています。各事例をもとに、さらに様々な教科における情報活用能力育成の授業づくりへと、拡張していただくことを期待しています。

佐藤幸江（放送大学客員教授）



理科 仕事とエネルギー

(第1分野) 中学校第3学年

情報活用能力を育む授業事例 ② 課題の設定

○1 情報活用能力育成をめざす単元づくり
本単元では、力学的な仕事の定義を基に、仕事とエネルギー、力学的エネルギーに関する現象について進んで理解し、解決方法を立案し実験や観察を行う。その結果を分析して解釈し、力学的エネルギーの特性を理解すると共に、それら日常生活と関連付けながら探究的に学習することができる。既習内容を使って日常生活の様々な現象の説明につなげやすく、実験によって数値的比較も容易であるため、分析、解釈をした上でグラフや図表を使って視覚的に説明につなげることもやりやすい単元である。

○2 理科における情報活用能力ベーシックと本時の「13のキーワード」

5つの学習プロセス: ②【課題の設定】	力学的エネルギーに関する実験の現象をとおして問題を発見し、学習してきたエネルギーの考えを使って解決したい課題を設定する。	13のキーワード: 【慣性】
------------------------	--	-------------------

右図のような2種類のコースの左端（スタート）から同じ鉄球を転がすとした場合、距離が長いコースBの鉄球の方が右端（ゴール）に早く到着する。滑り出しの傾斜角度は同じなので滑り出しの速さは同じである。それにも関わらず最終的には距離の長いコースBが早く到着する現象を見て、疑問に思ったことや不思議に感じたことから課題を発見し、それに基づいて仮説を立て立証しながら現象の説明へとつながる科学的な問いを待たせる時間である。

○3 本時目標：日常の疑問では一見矛盾する物理現象について、疑問に思ったことや不思議に感じたことの原因を明確にし、それを解き明かすための課題を設定できる。

○4 本時展開（9時間扱い 本時 8/9時間目）

時間	主な学習活動	指導上の留意点
導入	1. 本時のめあてを確認する。 2. 力学的エネルギー実験装置を使った物理現象を観察する。	● 物理現象の観察を通して、感じた疑問に基づいて、学習の課題を設定できるように促す。 ● 教師の指示に従い、複数の生徒でも実験を行い、いずれも同じ結果になることを確認する。 ● 学習者用端末を使い動画撮影し、後で繰り返し見直せるようにする。
展開	3. 【個人】 観察の結果をもとに、疑問に思ったことや不思議に感じたことを文章や図で表す。 4. 【協働】 グループのメンバーと互いに気づいたことを共有し、グループで合意した課題として一文にまとめる。	● 観察した動画を見直しながら、疑問等を文章にするように促す。 ● 同時展開機能を活用して、役割を分担して、グループとして十分な情報量を得るように指示する。
まとめ	5. 【全体】 グループの課題を出し合い、量なる課題は本時とつづき、学級全体で解決していく課題について話し合う。	● 得意に一つに絞らず、生徒の話し合いの判断に任せるようにする。

国語 観察・分析して論じよう『ポスター』の批評文

(第2分野) 中学校第3学年

情報活用能力を育む授業事例 ③ 整理・分析

○1 情報活用能力育成をめざす単元づくり
新に送られてくる何気ない広告やポスターは、多くの検討や批評を経て世の中に出ている。中学生は普段、自分自身の作品が評価されることが多い立場だが、今回は自分達が複数のポスターから最優秀作品を選出する過程を知る。何気なく触れている。広告やポスターを改めて観察し、込められた思いや情報の適切さ、指し方について分析・評価する活動を行う。本単元では、Google サイトを活用した自由探究学習を試み、Google サイトに必要な情報を事前に掲載し、学習者はそれらを参考に学習を進めていく授業スタイルをとった。複数の視点から対象を捉えたり、違いを比較し、物事を多面的に捉えられたりすることができ、それを表現につなぐことで情報活用能力の育成ができると思われる。

○2 国語科における情報活用能力ベーシックと本時の「13のキーワード」

5つの学習プロセス: ③【整理・分析】	集めた情報を、観点に沿って比較、分類、関係付け等して、伝えたいことを明確にする。	13のキーワード: 【比較】
------------------------	--	-------------------

前時までの学習で映画のポスターを観察したり、観点ごとに評価をしたりして、自分などのベストを選出する。ポスター以外にも、ゆるキャラやロゴマークなど多様な物事について、観察・分析する活動を行い、ものを多面的に捉える活動を行なっている。本時は、牛乳賞と賞状として推進ポスター4種類のの中から最優秀ポスターを選出するために、ポスターを観察し、観点をもとに自分なりに分析し、その見方・考え方をともに批評文を書く活動へとつながる。

○3 本時目標：観察・分析したり、他の作品と比較したりして最優秀ポスターを選出することができる。

○4 本時展開（5時間扱い 本時 5/5時間目）

時間	主な学習活動	指導上の留意点
導入	1. 本時のめあてを確認する。 ● 牛乳賞と賞状をもち、ねらいに適切に、観察や文字の配置などが見やすい観点から評価を行うことを確認する。	● 自作サイト上に、ポスターや観測点（教師作成）があることを確認する。
展開	2. ポスターについて批評文を書くために、観察・分析を行う。 【個別①】 観測点をもとにそれぞれのポスターについて観察・分析する。 【個別②】 各自の意見を持ち寄り、多様な観点からポスターを分析する。 【個別③】 推薦の考えを比べて、合意形成したりしながらの作品を最優秀ポスターにするか決定する。 3. 選んだポスターについての批評文を書く。 【個別④】 決定したポスターについて批評文を書く。最優秀作品だけでなく、他の作品についても着目した文とす。	● 自作サイト上に、ポスターや観測点（教師作成）があることを確認する。 ● 原則として観測点は示すが、各自で観測点を追加することが大事であると助言する。 ● 自分が選んだ作品のいい点や他を選ばなかった理由を簡潔に伝え合う。 ● 他者と話し合うことで自分が気づかなかった観測点を得たり、互いに納得できる点を話し合ったりし、批評文を書くこととする。
まとめ	4. 批評文を読み合うことを確認する。	● 批評文を書く際のポイントを確認して読み合うようにする。

参考 URL : <http://www.ibarakuren.or.jp/index.html>
※本事例の執筆にあたっては白土晴樹助（佐賀市立笠原中学校）の協力を得た。

社会 (公民的分野) 地方自治

(第2分野) 中学校第3学年

情報活用能力を育む授業事例 ④ 情報の収集

○1 情報活用能力育成をめざす単元づくり
本単元では、地方自治の制度や仕組みに関する理解を基盤として、具体的な地方公共団体（市区町村）の課題に着目し、その課題を解決するための政策案を立案する学習に取り組む。とくに、現実の市区町村を模範の対象とするため、当該の市区町村の概要や課題、政策案は具体的なものであるとともに、多様な大量の情報を適切に活用する必要性にせまられるものとなり、情報活用能力の育成を期待できる。

○2 社会科における情報活用能力ベーシックと本時の「13のキーワード」

5つの学習プロセス: ④【情報の収集】	対象とした地方公共団体に限らず、社会的課題に関する様々な情報を適切かつ効率的に収集する。	13のキーワード: 【収集】
------------------------	--	-------------------

前時までの学習で、4人1組で構成されるグループにおいて、検討の対象とする市区町村をそれぞれ決定している。本時では、地方自治の制度や仕組みに関する理解を基盤として、対象とした市区町村に関する調査資料から、当該市区町村に関する基本情報を収集する。なお、次時ではこの基本情報に基づいて当該市区町村の課題を設定することを伝えておくことで、この学習への意欲を高めていく。

○3 本時目標：検討する対象とした市区町村について、自然環境・気象・産業・地方議会、首長・特徴的な条例・地方財政・人口・人口構成に関する情報を適切に収集することができる。

○4 本時展開（7時間扱い 本時 2/7時間目）

時間	主な学習活動	指導上の留意点
導入	1. 本時のめあてを確認する。	● 市区町村の課題をよりよく発見、設定するための学習であることを合わせて伝える。
展開	2. 【個別①】 それぞれの端末を活用して、当該市区町村や行政機関等の web ページから、当該市区町村の「自然環境・気象・産業・地方議会・首長・特徴的な条例・地方財政・人口・人口構成」に関する情報を収集し、グループ内で共有しているプレゼン資料に記録する。 3. 【協働】 プレゼン資料に記録された引用元へアクセスし、引用の適切さや情報の正確さなどを確認し合う。	● 対象とした市区町村に関する基本情報を収集し、その適切さを正確に確認し合う。 ● 引用元となった web ページのサイト名や URL、最終閲覧日を合わせて記録させる。 ● 同時展開機能を活用して、役割を分担して、グループとして十分な情報量を得るように指示する。
まとめ	4. 【個別②】 3)に学習活動に基づいて自分が収集した情報を確認し、プレゼン資料に反映させる。また、当該市区町村の課題として推薦できると考える事項を確認する。	● 確認した結果や改善すべき事項はコメント機能を活用して記録し、対面での議論に活用する。 ● コメントや議論を踏まえて修正するだけではなく、次時の課題の発見・設定につなげるように促す。

4. セミナー開催

(1) 概要及びスケジュール

今年度は、昨年度までに開発した「情報活用能力ベーシック」や「情報活用能力を育む授業づくりガイドブック(小学校編)」を活用して実践した模擬授業を、ビッグイベントの中で3か所で実施する事ができ、単独セミナー2回、教育委員会とのタイアップ1回を開催できた。

図表7 セミナー開催実績

開催回数	開催日	開催場所	講師	人数
第1回	2022. 8. 4	大阪／関西教育 ICT 展・インテックス大阪 中学校模擬授業	佐藤委員 秋元委員 郡司委員	19 名 (定員 20 名)
第2回	2022. 8. 5	大阪／関西教育 ICT 展・インテックス大阪 小学校模擬授業	小林委員 佐和委員 菊地委員	35 名 (定員 20 名)
第3回	2022. 10. 29	愛知県春日井市／JAET 愛知・春日井大会／ 春日井市商工会議所	小林委員 佐和委員 菊地委員	83 名 (定員 20 名)
第4回	2022. 12. 17	北海道札幌市／情報活用能力育成セミナーin 北海道 札幌駅前ビジネススペース	稲垣委員 佐藤委員 佐和委員 菊地委員 前田委員 宮津委員	25 名 (定員 50 名)
第5回	2022. 12. 27	鳥取県鳥取市／教育委員会とのタイアップセ ミナー 鳥取県教育センター／オンライン開催	秋元委員 小林委員 佐和委員 前田委員 郡司委員 岡本委員	125 名
第6回	2023. 2. 25	福岡県福岡市／情報活用能力育成セミナーin 福岡 リファレンス大博多ビル会議室	中川委員長 佐藤委員 岩崎委員	45 名

			山口委員 菊地委員 郡司委員	
第7回	2023.3.3	教育の情報化推進フォーラム／小学校模擬授業 国立オリンピック記念青少年総合センター カルチャー棟	佐藤委員 佐和委員 菊地委員	197名
第8回	2023.3.4	教育の情報化推進フォーラムパネルディスカッション 国立オリンピック記念青少年総合センター カルチャー棟	中川委員長 小林委員 前田委員	145名
合計				674名

(2) 概要

セミナーの開催地は以下の要領で行った。

1) テーマ

「情報活用能力を育む授業デザインを考える」

2) 内容

◆ビッグイベント

小学校模擬授業 または 中学校模擬授業

◆単独セミナー／教育委員会タイアップセミナー

基調講演

小学校模擬授業

中学校模擬授業

総括パネルディスカッション

3) 対象受講者

教育委員会、教職員等学校関係者

4) 基調講演

①「情報活用能力を育む3つのステップ」東北学院大学文学部教育学科 教授 稲垣 忠委員

②「情報活用能力を育成するための授業の在り方～情報活用能力ベーシックを足がかりに～」

茨城大学 准教授 小林 祐紀委員

③「GIGA 時代の情報活用能力～情報活用能力ベーシックをもとに～」放送大学 教授 中川 一史
委員

5) 模擬授業

①小学校：情報活用能力を育む授業デザインを考える～小学校五年生「総合的な学習の時間」の
模擬授業から～

模擬授業者：浜松市立浅間小学校 教諭 菊地 寛委員

②小学校：情報活用能力を育む授業デザインを考える～小学校「算数」の模擬授業から～

模擬授業者：金沢大学人間社会学域学校教育学類附属小学校 教諭 岡本光司委員

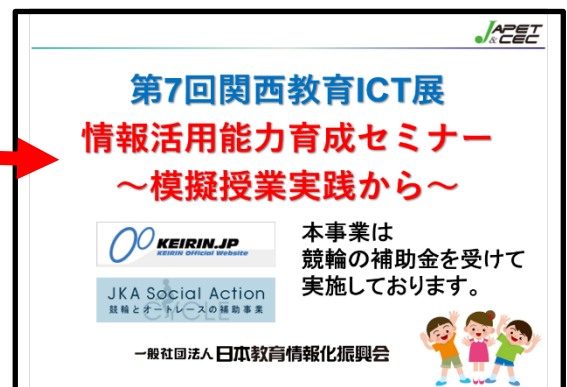
③小学校：情報活用能力を育む授業デザインを考える～小学校「算数」の模擬授業から～

模擬授業者：熊本市教育委員会総合支援課学校サポート班 指導主事 宮津光太郎委員

④中学校：情報活用能力を育む授業デザインを考える～中学校社会科・公民的分野3年の模擬
授業から～

模擬授業者：北海道教育大学附属函館中学校 教諭 郡司 直孝 委員

6) 開催の様子



図表8 関西教育ICT展内セミナー（インテックス大阪）の様子（令和4年8月5日）



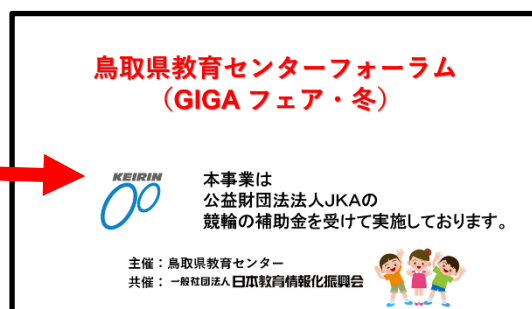
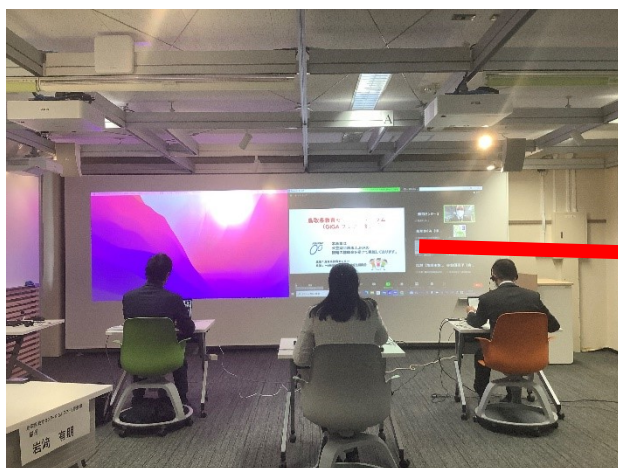
図表 9 関西教育 I C T 展内セミナー（インテックス大阪）の様子（令和 4 年 8 月 6 日）



図表 1 0 J A E T 愛知・春日井大会内ワークショップ（春日井市商工会議所）の様子
（令和 4 年 1 0 月 2 9 日）



図表 1 1 情報活用能力育成セミナー i n 北海道（札幌駅前ビジネススペース）の様子
（令和 4 年 1 2 月 1 7 日）



図表 1 2 鳥取県教育センターとのタイアップセミナー（鳥取県教育センター）の様子
(令和 4 年 1 2 月 2 7 日)



図表 1 3 情報活用能力育成セミナーin 福岡（リファレンス大博多ビル会議室）の様子
(令和 5 年 2 月 2 5 日)



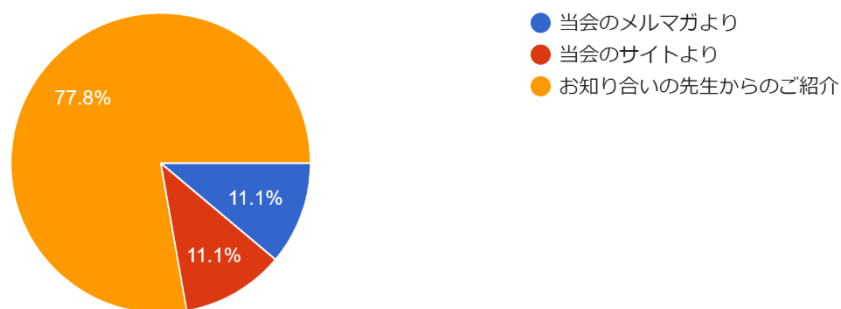
図表 1 4 教育の情報化推進フォーラム内セミナー（国立オリンピック記念青少年総合センター カルチャー棟）の様子

(3) アンケート結果

情報活用能力育成セミナーin 北海道 回答：9 件

質問 1 本セミナーは、何でお知りになりましたでしょうか。

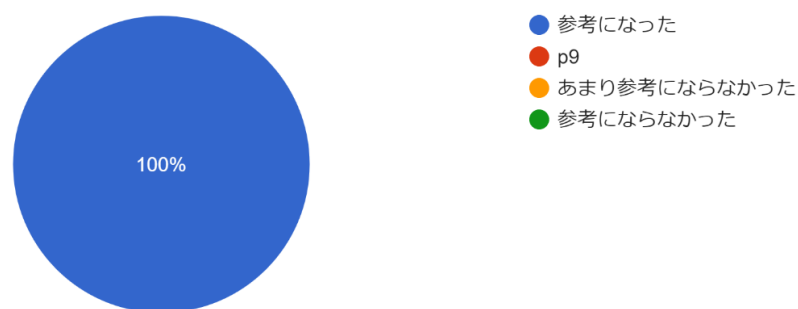
9 件の回答



図表 1 5 質問 1 の回答結果

質問 2 全体としてセミナーの内容は、いかがでしたか。

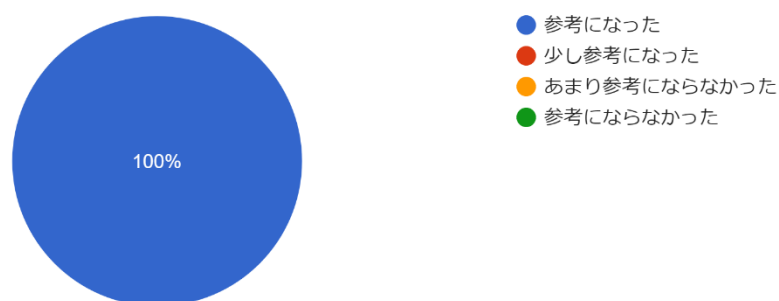
9 件の回答



図表 1 6 質問 2 の回答結果

質問 3 基調講演「情報活用能力を育む 3 つのステップ」は、いかがでしたか。

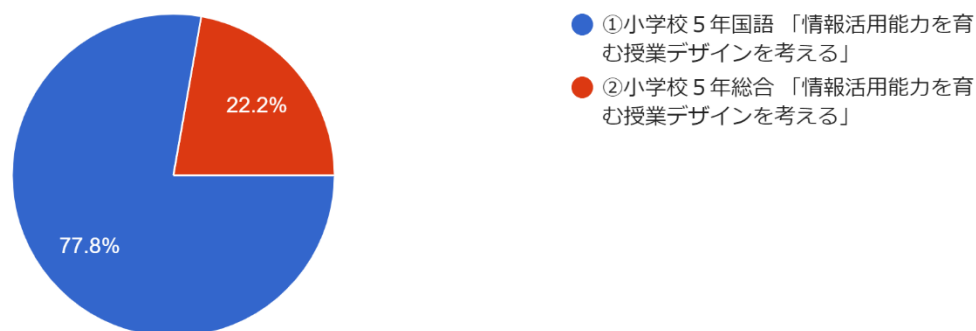
9 件の回答



図表 1 7 質問 3 の回答結果

質問4 参加された模擬授業をおしえてください。

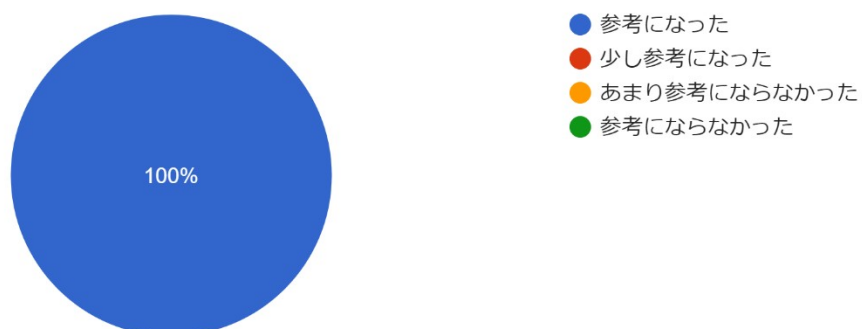
9 件の回答



図表18 質問4の回答結果

質問5 模擬授業 はいかがでしたか。

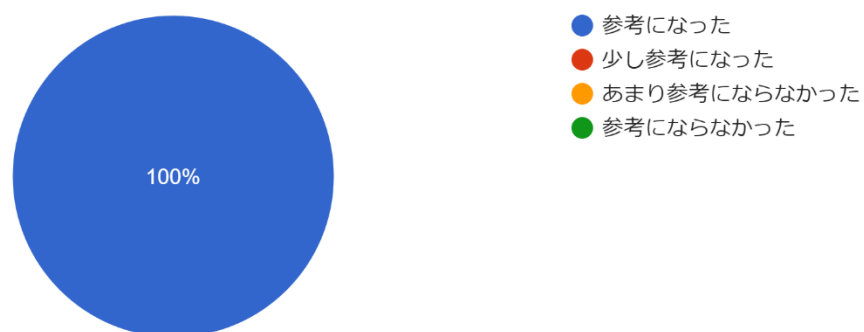
9 件の回答



図表19 質問5の回答結果

質問6 総括パネルディスカッション はいかがでしたか。

9 件の回答



図表20 質問6の回答結果

質問7 セミナー全般について、ご感想等がございましたら、お願いします。

5 件の回答

①大変有意義な研修にすることができました。本当にありがとうございました。

②大変勉強になりました。豪華な講師たちが素晴らしすぎました。ありがとうございました。

③模擬授業がとても楽しかったです。校内研修の在り方に悩んでいましたが、ワークショップ形式でアウトプットやコミュニケーション中心にしていこうと思いました。ありがとうございました。

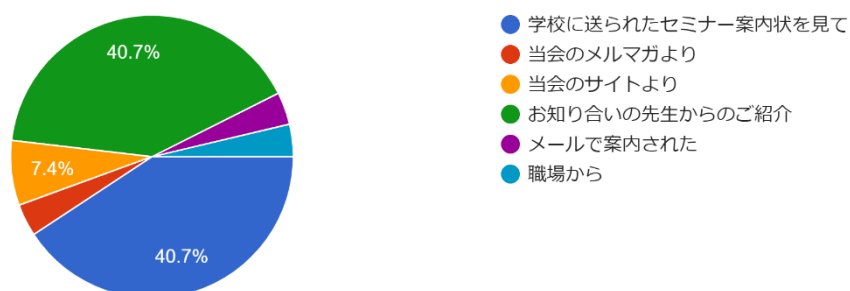
④この度は、貴重なセミナーに参加させて頂きありがとうございました。以前より稲垣忠先生の著書等から学ばせて頂いており、本日のセミナーは3時間半没頭しあっという間でした。ありがとうございました。今後も宜しくお願い致します。

⑤模擬授業を体験して、イメージがハッキリしました。最初から最後まで大変参考になりました。ありがとうございました。

情報活用能力育成セミナーin 福岡 回答：27件

質問1 本セミナーは、何でお知りになりましたでしょうか。

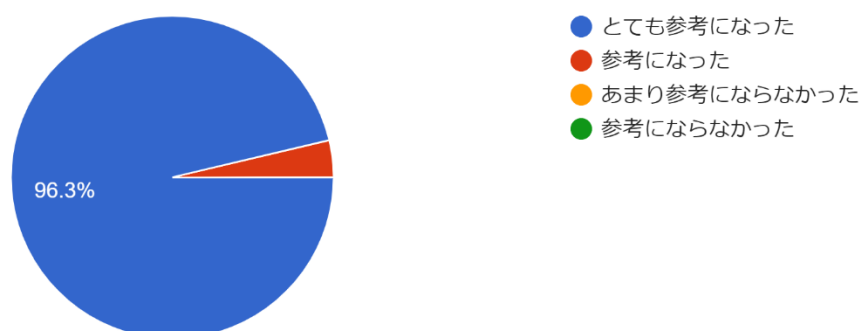
27件の回答



図表2-1 質問1の回答結果

質問2 全体としてセミナーの内容は、いかがでしたか。

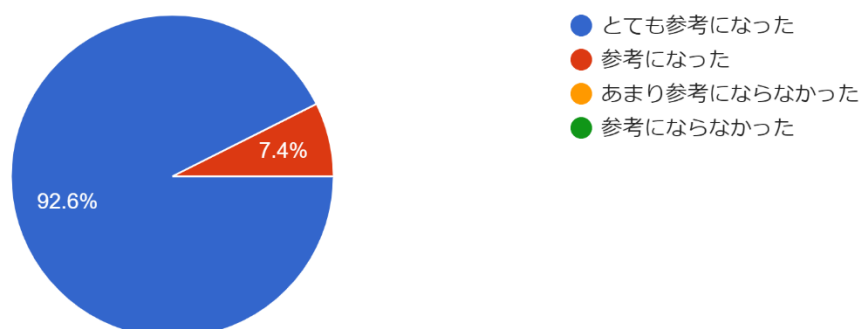
27件の回答



図表2-2 質問2の回答結果

質問3 基調講演「GIGA時代の情報活用能力...能力ベーシックをもとに～」は、いかがでしたか。

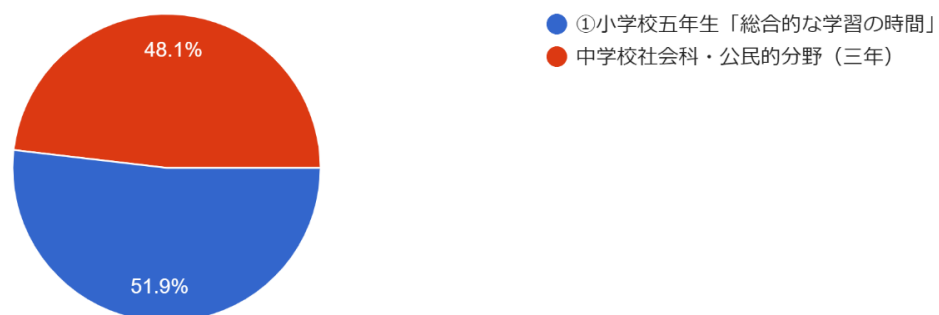
27件の回答



図表2-3 質問3の回答結果

質問4 参加された模擬授業をおしえてください。

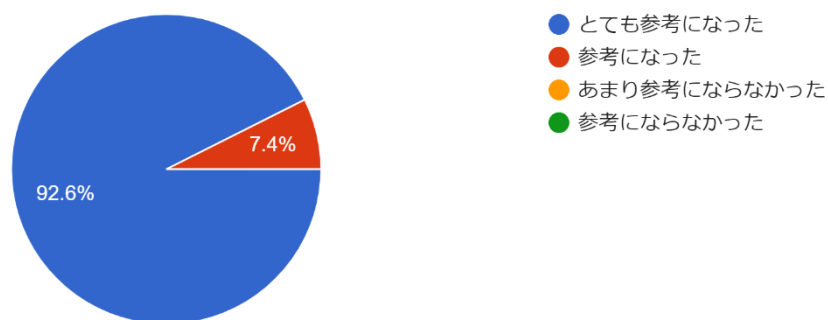
27 件の回答



図表 2 4 質問4の回答結果

質問5 模擬授業 はいかがでしたか。

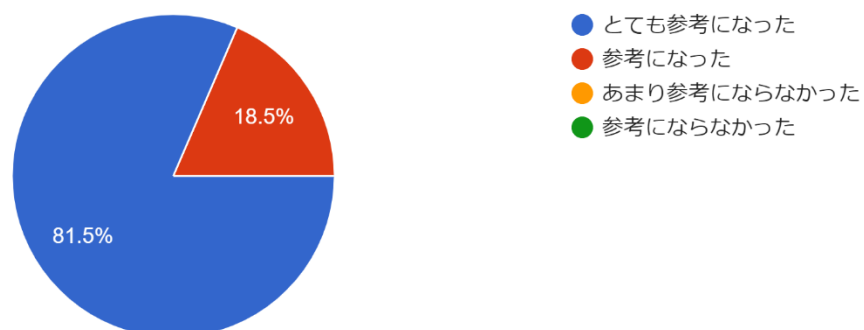
27 件の回答



図表 2 5 質問5の回答結果

質問6 総括パネルディスカッション はいかがでしたか。

27 件の回答



図表 2 6 質問6の回答結果

質問7 セミナー全般について、ご感想等がございましたら、お願いします。

①役立つ資料が多く、大変参考に。なりました。参加費が無料なのもありがたいです。

実践に活かしたいと思います

②ありがとうございました。分かりやすかったです。

③こうした機会を用意していただき、とても感謝しています。機会があればまた参加したいです。
ありがとうございました。

④情報活用能力について改めて考える機会をいただきました。ありがとうございました。

⑤参加して本当によかったです。整理されました。

ありがとうございました

⑥大変参考になる講義をありがとうございました。

⑦大変勉強になりました。情報活用能力を ICT 機器を使えばいいんでしょうという学校は多いで
す。今日のような体験型の研修をしていくことが大切だと思いました。大人の情報活用能力を育
成していくことも新たな切り口として考えていきます。

⑧ありがとうございました。楽しかったです。

⑨情報活用能力ベーシックを学校に伝えたいと思います。教師が不親切であること、子供に委ねて
いくことで、魅力ある教育につながると感じました。

⑩ありがとうございました

⑪福岡でこのような研修会が多く開催されることを希望します。福岡県教育センターの指導主事も複
数名参加していたこともよかったと思います。

⑫情報活用能力育成を柱として、本市学校教育の情報化を推進していくために、情報活用能力ベー
シックや情報活用能力を育む授業づくりハンドブックを市内全校に紹介して浸透させていきま
す。本日は貴重な学びの機会をいただき、誠にありがとうございました。

⑬情報活用能力を育む授業は、一度したから良しではないように、教師側も情報活用能力を育むこ
とについて、何度も学んでいかないといけないと感じました。貴重な機会と貴重なお話、貴重な
実践を体感でき、嬉しかったです。今後ともよろしくお願いいたします。

⑭最新の情報や学校での活用を学ぶことができ、大変勉強になりました。また機会があれば参加
し、学ばせていただければと思います。

⑮半日の研修で参加しやすいうえ、GIGAを進めていくなかで今考えるべき大事な要素が凝縮されて
いたと感じます。ありがとうございました。

⑯会場へのアクセスは最高でした。登壇者との距離も近く良い会場でした。

5. 授業研究

今年度及び2023年度から本格的に始まる情報活用能力育成セミナー本番実施に向け、模擬授業等のセミナー企画に役立てるため、当委員会の中川委員長や前田委員が情報活用能力育成をテーマに授業指導している学校の公開授業と授業研究会を参観した。

- (1) 船橋市教育委員会 国際理解教育長期研究指定 船橋市立葛飾小学校公開研究会
船橋市立葛飾小学校

船橋市立葛飾小学校の公開授業と授業研究会は、「国際性豊かな児童の育成～情報活用能力の育成を基盤として～」を研究主題とし、学習野木版となる情報活用能力と本事業で開発した「情報活用能力ベーシック」を学校研究計画に取り組んだものであり、本事業の研究内容にとっても参考になる実践であり、委員の先生方の授業研究の貴重な機会と考える。

- (1) 開催地：船橋市立葛飾小学校
(2) 開催日時：令和5年2月3日（金）13：00～16：45
(3) 授業参観委員：佐藤委員、佐和委員
(4) 参観授業：公開授業

中学年第四学年総合的な学習の時間「県内の特色ある地域と人々の暮らし
～国際交流がさかんな成田市～」



図表27：授業参観されている郡司委員

2022 年度事業「情報活用能力の授業力育成事業（J K A 事業：コミュニケーション力育成事業）情報活用能力育成研究授業調査報告書

訪問学校：船橋市立葛飾小学校

日時：2 月 3 日（金）13：00～

報告者：所属 北海道教育大学附属函館中学校

氏名 郡司 直孝

1. 研究授業内容

学年：4 年	科目：社会科・総合的な学習の時間	授業者：南田 彩花 教諭
単元名：県内の特色ある地域と人々の暮らし～国際交流がさかんな成田市～		

2. 研究授業内容（授業の流れや指導・I C T 活用のポイント等）

本時では、社会科での国際交流がさかんな都市としての成田市に関する学習を踏まえて、総合的な学習の時間において、船橋市における国際交流に関わる課題を起点とした探究的な学びを展開する単元構成の中の「振り返り・改善」にあたる内容が計画された授業であった。

研究授業では、グループごとに国際交流に関する事業の提案（発表）がなされた。その際、プレゼンテーションアプリを活用するだけでなく、模造紙や画用紙などを活用するなど、デジタルとアナログの意図的な併用が見られた。また、当該学習（発表）への助言者として、船橋市教育委員会における日本語教育のスタッフが教室で、国連職員が Zoom を介して参加していた。

3. 情報活用能力育成事業において、参考になった点や事業に生かせる点等

本研究授業では、「振り返り・改善」を軸とした授業が展開される予定であったが、発表や助言などが含まれた内容であったため、それらに要する時間が多くなってしまったことから、「振り返り・改善」そのものに要する時間が少なくなっていた。また、とくに研究授業のような場合、「見せ場」となる「まとめ・表現」が選択されることが多いと考えた。

そのため、今後育成事業における実践の蓄積では以下の 2 点が重要になると考える。

①「まとめ・表現」以外の場面での授業：なかなか「見せ場」とはならなくとも、いわば「見ていてすっきりしない」ことの多い「課題の設定」「整理・分析」の場面の実践を蓄積し、公開していく必要があると考える。

②「振り返り・改善」に真に軸を置くことのできる授業：児童生徒が自らの学習を振り返るためには、それ単独で十分な時間を設定する必要がある（何かとセットにするのではなく、その仕掛けや時間を十分に準備する）。

(2) 熊本市立五福小学校

熊本市立五福小学校の公開授業と授業研究会は、「対話を通して協働的に学び続ける子どもの育成」～STEAM教育の視点を取り入れた探究的な学習プロセスを通して～を研究主題とし、情報活用能力や課題の工夫、問題解決のための対話等をテーマとしており、本事業の研究内容にとっても参考になる実践であり、委員の先生方の授業研究の貴重な機会と考える。

(1) 開催地：熊本市立五福小学校

(2) 開催日時：令和4年2月4日（金）13：00～16：30

(3) 授業参観委員：菊地委員、佐藤委員

(4) 参観授業：公開授業

高学年第六学年総合的な学習「五福の町に恩返しをしよう
～五福PRショップを開こう～



図表28：授業参観される菊地委員と佐藤委員

2022 年度事業「情報活用能力の授業力育成事業（J K A 事業：コミュニケーション力育成事業）情報活用能力育成研究授業調査報告書

訪問学校：熊本市立五福小学校

日時：2 月 4 日（土）13：00～

報告者：所属 浜松市立浅間小学校

氏名 菊地 寛

1. 研究授業内容

学年： 6 年	科目：総合的な学習	授業者 松尾 美紀子
単元名：五福の町に恩返しをしよう ～五福 PR ショップを開こう～		

2. 研究授業内容（授業の流れや指導・I C T 活用のポイント等）

参観会で、保護者を対象にした「五福 PR ショップ」のオープニングに流す CM をグループで検討していた。はじめに、個人の構成案を「ロイロノート」を使って作成したものを提案し、グループで話し合い、内容を検討、決めていった。その後は、iPad-imovie を使い、音楽、画像、キャッチコピーを入れて、20 秒での CM を作成していった。教師は、それぞれのグループの見届けを行い、できそうと判断したグループから CM 作成を行っていった。どの児童も操作に困ることなく、グループで分担しながら、作業を行っていた。これまでに ICT を授業で活用してきたことがよく分かる授業であった。

一方で、個人で考えた構成案の中での取り入れる画像、配列、キャッチコピーをグループで練り合う時間がなかったため、だれかの意見をベースに作成していったり、作業と話し合いを同時並行したりと、作成することに主が行われていたように思われた。もう少し、グループで練り合う時間を設けるとよかったのではないかと思った。

3. 情報活用能力育成事業において、参考になった点や事業に生かせる点等

タブレットを道具として、児童が自由に活用していった。まずはそのレベルになるまで、この授業だけではなく、4 月からどの授業でも活用をまずは進めていく必要があると感じた。その上で、情報活用能力をどう育成するかを考えていく必要があると感じた。グループでの話し合いにおいて、タブレットを用いて、情報活用能力を育成と考えた場合、今回は各自がタブレットを見せて自分の意見を話し、作業段階で互いのロイロノートを自分のタブレットで開き、コピーをしていった。そこから、情報を整理・分析段階でも、タブレットを活用する必要性を感じた。そのためには、ただ見せるのではなく、互いに共有された画面やカード（ノート）に話し合いの内容を書き込む必要があると思った。口頭だけの話し合いでは、話し合いが流れてしまい、視点がはっきりしていなかったと思われた。タブレットをどう活用するのかも発信していく必要性を感じた。

2022 年度事業「情報活用能力の授業力育成事業（J K A 事業：コミュニケーション力育成事業）情報活用能力育成研究授業調査報告書

訪問学校：熊本市立五福小学校

日時：2月4日（土）13：00～

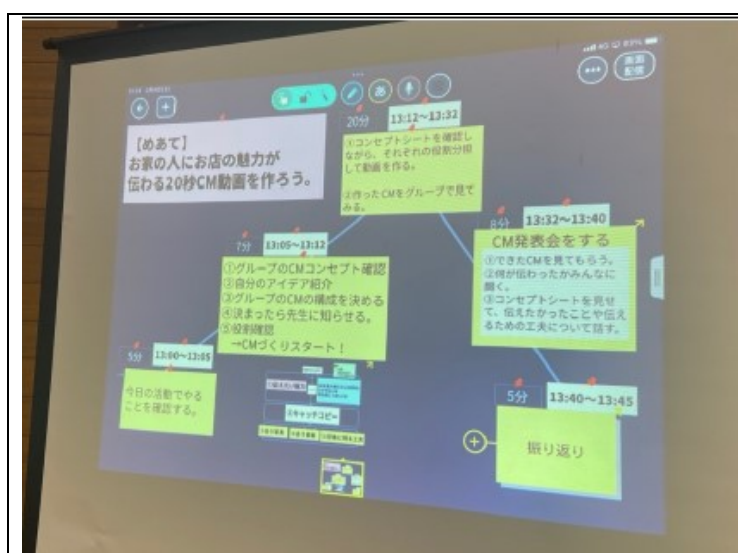
報告者：所属 放送大学

氏名 佐藤 幸江

1. 研究授業内容

学年： 6 年	科目：総合的な学習	授業者 松尾 美紀子
単元名：五福の町に恩返しをしよう ～五福 PR ショップを開こう～		

2. 研究授業内容（授業の流れや指導・I C T 活用のポイント等）



左図は、本時指導案。思考ツールを応用して作成しており、かなりシンプルな作りである。授業は、教師からの本時課題の確認後は、グループにおけるCM づくりの時間、その後、発表という流れであった。CM づくりでは、iPad が学習者の学びのツールとして自然に使われており、画像編集、ネット検索、BGM の選曲、自作で曲づくり等々、個の課題に応じて活用されていた。

3. 情報活用能力育成事業において、参考になった点や事業に生かせる点等

●対話の活性化=合意形成，対話を重視した学習計画

グループで制作を分担しながら、CM づくりを行っていた。こういう学習形態では、どのように対話を活性化するかが鍵となる。本時においても、アプリの使い方で「分からない点やこうした方が良い」との情報交換がほとんどであった。お店の人の思いを考えた上で発信内容になっていたのか、そういう対話を促す必要があったと考える。

●振り返りの重要性

本事業においても、「振り返り」の必要性を提案しているが、本校においても大事にしている様子が観察された。

●教師の授業観

児童の端末のスキルはとても進歩していたし、探究学習のステップも踏んでいるようであった。しかし、授業は、これまでのままで、教師がコントロールしていた。時間の使い方等もっと学習者に委ねてもよかったし、せっかく情報共有できていても、それを1つ1つ教師が取り上げて話し合うという形であった。その辺の授業観の転換が、こ

これまで校内研究を積み重ねてきた学校においても、まだ進んでいない状況が垣間みられた。今後、端末のみならず、どう学びを学習者に委ねるのかについても、セミナーや模擬授業等で伝えていく必要があると感じた。

6. まとめ

本委員会では、学校現場の先生方が子どもたちの情報活用能力を育成する学習を行うために、参考となる指導指標を開発することやその指導指標を学校現場で活用してもらう、普及することを本事業の目的とした。

2022年度は、2020年度に開発した授業の構想及び実践に資することを意図し、学習のプロセスに情報活用能力を位置づけた「情報活用能力ベーシック」の活用方法について、学校現場の先生目線で中学校版「情報活用能力を育む授業づくりガイドブック」としてまとめることができた。

模擬授業については、この情報活用能力ベーシックを活用した学習指導案を作成し、授業として具現化する場面を創出し、委員会で検討を重ね、教員が情報活用能力育成をイメージできるものとして開発した。2022年度は、2つのビッグイベントの中で模擬授業を行うことができた。

教育委員会とのタイアップセミナーは、コロナ禍の影響でオンライン開催ではあったが、鳥取県教育センターと開催することができ、多数視聴いただいた。

また、2023年度のセミナー開催の足かかりとして、単独セミナーとして東日本1地域と西日本1地域で、情報活用能力育成セミナーを開催することができた。

今年度までに開発・制作した以下の3つのツールを活用して、セミナーを実施出来たことが大きな成果となった。

- (1) 「情報活用能力ベーシック」パンフレット
- (2) 「情報活用能力を育む授業づくりガイドブック」
- (3) 「情報活用能力を育む授業づくりガイドブック中学校編」

2023年度は、上記の3つのツールを活用し、様々な地域やイベントで広く模擬授業を実施していき、さらに学校現場で活用されることを期待している。

また、教育委員会にとっても、この3つのツールは、学校指導に有効活用できるものであり、教育関係者に役立つものと考えている。今後はweb等で広く啓蒙していく予定である。

本委員会では、研究者、教育委員会担当者、校長、教員、そして事務局の日本教育情報化振興会が一丸となって、本事業を進めてきた。この冊子や取り組みが、子どもたちの情報活用能力育成に寄与することを願ってやまない。

以 上

教育現場の I C T 安全安心対策事業 実施報告書

発行・著作 一般社団法人日本教育情報化振興会

〒105-0001 東京都港区虎ノ門2-10-1 虎ノ門ツインビルディング1階

TEL 03-5575-5365

FAX 03-5575-5366

<https://www.japet.or.jp/>

禁無断転載

